

大学の世界展開力強化事業（令和２年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	宇都宮大学		
主たる交流先	アフリカ諸国	ガーナ、エチオピア、ケニア、タンザニア	
事業名	【和文】	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	
	【英文】	Programme for Developing Human Resource to Contribute to SDGs by Merging African Potential and Japanese Scientific Technology	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	松金 公正	(所属・職名) 理事・副学長
	(交替年月日)	2022/4/1	
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で1ページ以内、（３）と（４）で2ページ以内、（５）と（６）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本プログラムではSDGs貢献人材育成を目標に、幅広い課題を包含するSDGsを理解するために文理融合のもと、アフリカ側6大学と協議し、2023年度は3つのオンライン企画を中心に推進した。①7大学で国際共同開講する必修集中講義「Global Management 2023」の開講、②課題を深く掘り下げる連続国際シンポジウムを5回開催、③参加大学院生が自ら運営し研究成果を発表する「Student Summit 2024」の開催、④さらに①の成績に基づき選考した派遣7名、受入15名の実渡航の交換留学生に対して「臨地研究」を開講、⑤3月にはアフリカ4大学から4名の教員と15名の学生を受入れ、「Student Summit 2024」に参加して招聘教員はシンポジウムで講演し、また本プログラムについて対面で協議した。なお、長期派遣・受入学生はそのまま滞在中である。

【特に優れた取組】

①教育の質保証を伴った公平な成績評価システムを有する教育用Webアプリを用いた必修集中講義「Global Management 2023」の開講、②その成績をもとに選抜した実渡航の派遣・受入学生に対する「臨地研究」の開講、③アフリカからの招聘教員・受入学生とともに「Student Summit 2024」を開催

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本プログラムにはアフリカの6大学が参画しているので、相互の意思疎通を図って魅力的なプログラムを実施するために、あらゆる情報を相互に公開して協議する月例会議を10回開催した。さらに6大学のうちの4大学から教員を招聘し、本プログラムの運営方針について対面で協議した。国際共同開講の必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用い、教育の質保証を伴った公平な成績評価システムでCertificateを授与し、「Global Management」の成績に基づいて実渡航の交換留学生を公平に選抜した点がアフリカ側に好評であった。また、実渡航する交換留学生に「臨地研究」を開講し、参加学生のSDGs貢献人材としての主観的能力の向上をはかった。

【特に優れた取組】

①事業推進室会議およびUU-A月例会議の定期的開催によるプログラムの推進、②アフリカからの招聘教員との対面協議、③「さくらサイエンスプログラム」申請による短期受入学生を増やす試み、④特に派遣学生に対する「臨地研究」の開講による主観的能力の向上

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

今年度は長期派遣学生は本学学生が毎年のように留学しているガーナ大学へ、短期派遣学生はケニアの2大学へ派遣した。これに先立ち、昨年夏に教員をケニアに派遣して受入れ状況を調査した。また、派遣に先立って「臨地研究」を開講するとともに、交換留学生向けオリエンテーションで安全管理の講習を開講し、黄熱病ワクチン接種を支援した。一方、本プログラム予算での短期受入3名、長期受入3名に加えて、必修集中講義「Global Management 2023」に200名を超すアフリカ側受講学生の中から多数の成績優秀者がいたため、「さくらサイエンスプログラム」予算で9名を短期受入として増員し、受入環境を整えた。

【特に優れた取組】

①アフリカ6大学から専門分野が異なる学生を短期・長期での受入を実施するとともに、「さくらサイエンスプログラム」予算で9名を短期受入として増員した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本プログラムでは日本語版及び英語版のホームページ (<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp>) を設けて情報を公開している。また、本プログラムや「Global Management」の日本語版及び英語版のパンフレットを作成し、本学大学院修士課程の新入生やアフリカの6大学に配布した。これらの取り組みにより、本学学生およびアフリカの学生に対して、学生選考、奨学金、そしてアフリカの学生に対しては宿舍関係の情報を提供した。また、連続シンポジウムの録画はHPで公開し、JV-Campusともリンクしている。さらに、このような活動は新聞でも報道され、アフリカ側大学のHPでも広報された。

【特に優れた取組】

①SDGsに関連した課題を深堀するために開催した連続シンポジウムは、その録画を開始当初よりHPで公開するとともにJV-Campusともリンクさせている。

(2) 特記すべき成果

学長戦略経費からJASSO奨学金相当分を支援し、2023年度は派遣を1名増やして短期5名・長期2名の計7名の実渡航を実現した。さらにアフリカ6大学より1名ずつの合計6名を短期・長期で受入れるとともに、「さくらサイエンスプログラム」で短期受入学生9名と招聘教員1名を増やした。また、招聘日程に合わせて「Student Summit 2024」を開催した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

7大学で共同開講している必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用いて15回の講義ごとに小テストやレポートを課し、講義資料やその採点結果をアフリカ側教員と共有している。また、チャット形式による質疑もアプリ上で可能で、2023年度はSDGsのゴール別に協働板を用意し、400を超える投稿があった。このような教育の質保証を伴った成績評価システムにより適切にCertificateが授与される点がアフリカ側に好評であった。なお、必修集中講義では2022年度と比較して2023年度は参加希望学生数は267名から315名に増加し、Certificate授与者数も130名から212名に大幅に増加した。この様に、これまでの協議による講義システムの改善が認められた。一方、学生の研究発表の「Student Summit」でも、国際学会のWeb発表形式を体験できる点が参加学生に好評で、発表数が23題から60題に増加したが、アップロードするまでの過程で脱落する学生が依然として多くいた。さらに、アフリカ6大学とはZoomにより月例会議を開催し、本プログラムの推進について常に議論している。

2. 交流学生数の実績等 【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	7人	13人	21人	21人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	7人	13人	21人	21人
30日未満		人	7人	12人	18人	18人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	1人	3人	3人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調査分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)		0人	7人	13人	21人	21人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	7人	13人	21人	21人
30日未満		0人	7人	12人	18人	18人
30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人	0人
3ヶ月以上		0人	0人	1人	3人	3人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満		0人	0人	0人	0人	0人
30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人	0人
3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0 人			45 人			66 人			85 人			0 人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人			0人	45人	0人	5人	61人	0人	7人	78人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数				0人			0人	45人	0人	5人	61人	0人	7人	78人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	45人	人	4人	61人	人	5人	78人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	1人	人	人	2人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)							642.9%			507.7%			404.8%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

本プログラムの目的であるSDGs貢献人材の育成において、多方面の課題を包含するSDGsを文理を超えた多文化共修で理解を深めるために、必修集中講義「Global Management」をインターネットを用いて7大学共同で開講している。この講義では教育用Webアプリ「C-learning」を用い、15回の講義ごとに小テストやレポートを課し、その採点結果とともに講義資料や課題をアフリカ側教員と共有している。本学の学生の受講数は2021年度が52名、2022年度が70名、2023年度が82名で、またCertificate授与者数（すなわち単位取得者数）は45名、61名、78名の合計204名中184名(90%)であった。国際共同講義を受講できる点が学生には好評で、計画当初は20名程度の受講学生を予想していたので、「達成目標に対する実績の割合 (B/A)」が極めて高くなった。なお、本学の学生は「C-learning」を日常的に使用しているので、アプリを使用する上での問題はなかった。

一方、水際対策の緩和に伴い、2022年度からは実交流を開始し、2023年度は9月に推進室所属の教員1名と事務職員1名がケニアのジョモケニヤッタ農工大学およびメル科学技術大学を訪問し、本学学生をケニアに派遣する場合の受け入れ体制などを協議した。さらにナイロビのJICA事務所の訪問した。また、派遣・受入の事前教育として「臨地研究 (On-site studies)」を開講した。最終的に2月に短期5名をケニアに派遣し、長期2名は昨年9月からガーナ大学に派遣して現在は年度を越えて滞在中である。なお、短期派遣2名分は学長戦略経費からJASSO奨学金相当分を支援した。

なお、2022年度の派遣が2月～9月であったため、次項の「2. (4) 海外相手大学との単位互換」では2022年度の実績を「0」、2023年度の実績を「1」とした。2023年度の派遣は昨年9月から今年の8月までの予定であり、計上していない。

【特に優れた取組】

① 教育用Webアプリを用いた必修集中講義「Global Management」の開講し、② 派遣学生に対する事前教育として「臨地研究 (On-site studies)」を開講して参加学生のSDGs貢献人材としての主観的能力の向上をは図り、③ 学長戦略経費からJASSO奨学金相当分を支援し、2023年度は派遣を1名増やして短期5名・長期2名の計7名の実渡航を実現した。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		0人	7人	13人	21人	21人
単位取得を伴う受入学生数		0人	7人	13人	21人	21人
30日未満			7人	12人	18人	18人
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上				1人	3人	3人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		0人	7人	13人	21人	21人
単位取得を伴う受入学生数		0人	7人	13人	21人	21人
30日未満		0人	7人	12人	18人	18人
30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人	0人
3ヶ月以上		0人	0人	1人	3人	3人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
30日未満		0人	0人	0人	0人	0人
30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人	0人
3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (D)				0 人			102 人			74 人			149 人			0 人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人			0人	102人	0人	5人	69人	0人	15人	134人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	102人	0人	5人	69人	0人	15人	134人	0人	0人	0人	0人
	30日未満			人			人	102人	人	4人	69人	人	12人	134人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			人			人	人	人	1人	人	人	3人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)							1457.1%			569.2%			709.5%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

本プログラムの目的であるSDGs貢献人材の育成において、多方面の課題を包含するSDGsを文理を超えた多文化共生の理解を深めるために、必修集中講義「Global Management」をインターネットで7大学で共同開講している。この講義では教育用Webアプリ「C-learning」を用い、15回の講義ごとに小テストやレポートを課し、その採点結果とともに講義資料や課題をアフリカ側教員と共有している。また、チャット形式による質疑もアプリで可能である。このような公平な教育の質保証を伴った成績評価システムにより適切にCertificateが授与される点がアフリカ側に好評であり、Certificateがアフリカ学生の学習歴の保証に使用されているようである。また、無料でオンデマンドで国際共同講義を受講できる点も学生には好評で、達成目標に対する実績の割合 (D/C) が極めて高くなったと思われる。

その結果、2021年度はアフリカ側の参加希望学生数171名に対しCertificate授与者数102名（授与率60%）、2022年度は参加希望学生数197名に対しCertificate授与者数69名（35%）、2023年度は233名中134名（58%）と大きく増加した。2022年度の現象の原因を月例会議で検討し、2023年度は対応して改善できた。

一方、水際対策の緩和に伴い、2022年度からは実交流を開始し、アフリカ側と協議して、「Global Management」の成績に基づいてこの3月にアフリカ6大学から短期3名と長期3名を受入れた。さらに「Global Management」で成績優秀者が多数いたので急速「さくらサイエンスプログラム」に申請して短期で9名を受け入れ、最終的に2023年度の受入学生は合計15名となった。

なお、必修集中講義「Global Management」は宇都宮大学では2単位に相当し、そのCertificateは6大学の学生に2021年度は102名、22年度は69名、23年度は134名に授与している。

【特に優れた取組】

① 教育用Webアプリを用いた必修集中講義「Global Management」の開講し、② アフリカ6大学より1名ずつの合計6名を短期・長期で受入れるとともに、③ さらに「さくらサイエンスプログラム」で短期受入学生9名と招聘教員1名を増やし、④ 招聘日程に合わせて「Student Summit 2024」を開催した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2024年3月4～8日	Student Summit 2024	60 人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数			2	2	4	4	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 宇都宮大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0	4	4	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	8	12	8	12
アジスアベバ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	3	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	6	12	8
メル科学技術大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	3	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	6	10	6
ダルエスサラーム大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	6	10
ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	10	6
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	3	3	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	6	6	8	12
年度別認定者数合計			0	7	13	21	21
年度別認定単位数合計			0	14	30	54	54

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	0	0	0	0	1	6		

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 宇都宮大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
アジスアベバ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
メル科学技術大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
ダルエスサラーム大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	1	
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	
年度別認定者数合計			0	0	0	1	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	山口大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ナイロビ大学（ケニア）		
事業名	【和文】	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム		
	【英文】	Veterinarian training program responsible for infectious disease control to solve One Health problem in Asia and Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	石井 由理	(所属・職名)	副学長（国際連携担当）
	(交替年月日)	2022/4/1		
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~sekaitenkai/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）と（６）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

受入については、9月4日から9月15日にかけて、ナイロビ大学獣医学部のⅢ期生4名を受け入れた。期間中、本学共同獣医学部4年生と一緒にBSL-3実験室、総合病性鑑定施設を活用した「動物感染症総合実習」の受講、秋吉台サファリランドでのインターンシップ等を実施した。また、受入前には京都大学の協力を得て同大学が提供する日本語プログラム入門コースを、来日後は本学日本語教員による日本語の授業を受講した。

派遣については、9月18日から9月29日にかけて、本学共同獣医学部のⅢ期生6名及び岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科の学生2名がケニアを訪れ、ナイロビ大学獣医学部での実習、農場での診療等の他、ケニア中央医学研究所(KEMRI)、長崎大学ケニア拠点(KEMRI-NUITM)、JICAナイロビオフィスの訪問を行った。また、国際学会参加、現地学生とのディスカッション、研究発表等を行った。

また、1月28日から2月17日にかけて、本学大学院学生3名をナイロビに派遣し、主にKEMRI-NUITMにて、マダニ媒介感染症に関する共同研究に従事した。

さらに、3月には、本学国際総合科学部の学生2名をナイロビ大学に派遣し、他分野への交流拡大を進めた。

【特に優れた取組】

2023年度の派遣学生数については、学部生は計画4名に対し6名の派遣、大学院生は計画2名に対し3名の派遣と計画を上回る成果が見られた。また、国際総合科学部の学生2名を派遣し全学的な交流につながった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

事業推進委員会の委員長に学長、副委員長に国際連携担当副学長を据え、大学の方針と国際戦略を直接反映できる体制へと見直したことで、2023年9月のナイロビ大学生受入時には、引率教員・学生の学長表敬訪問、国際部門での大学間交流に向けた協議の実施、また、同月の学生派遣時には本学教員によるナイロビ大学学長(Vice-Chancellor)への表敬訪問が実現し、ナイロビ大学と大学間国際交流協定の締結（2023年12月15日）に至った。

【特に優れた取組】

事業推進委員会委員長に学長を指名し、事業運営事務局およびアフリカOneHealthプログラム推進会議を設置したことにより、学長のコミットメントを高め、大学の方針と国際戦略を直接反映できる体制とした。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

ナイロビ大学からの受入では、渡日前から渡日後の継続した日本語授業を実施し、日本人学生との学外見学や学内での交流ですぐに日本語を活用できるカリキュラムを整えた。また、大学敷地内にある国際寮への宿泊手配をし、在学中のアフリカ出身留学生から生活面でのアドバイスなどを気軽に受けることのできる環境を整えた。

派遣では、渡航前英語研修を行なったほか、受入学生滞在中に派遣予定学生との交流会を設け、受入学生の帰国便と同じ便で学生を派遣し、日常的に交流や相互扶助できる環境づくりを行なった。

【特に優れた取組】

獣医系大学院連携協議会の構成大学及び陪席大学の獣医系学部ナイロビ派遣参加を募ったところ岐阜大学から2名が参加するなど、他大学の学生が参加できる環境を整備した。また、学内の他分野への展開として、本学国際総合科学部の学生2名の派遣が実現したが、派遣にあたっては、AA Health Dynamics社と連携し、派遣前のオンラインミーティングにて仮説設定、ナイロビにて仮説検証フィールドワーク、帰国後の報告会にて課題解決発表といった一連のプログラムを盛り込んだ「課題解決力開発ワークショップ」を実施した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

・大学の国際化

世界展開力強化事業の活発化により、アフリカ出身の留学生数が2020年度の 5人から2023年度は23人と4倍以上に増加した。また、ナイロビでの実習により第1期生派遣学生4名中3名が国際共同研究や感染症研究継続を希望し、卒業後に本学大学院へと進学した。

・情報の公開

学生の受入・派遣の実施、報告会、トークイベントなどホームページで公表することで、当プログラムの実施状況をPRすることが出来た。

・成果の普及

本事業の学内普及を促進するために、「アフリカフェア」及び「国際協力トークショー～アフリカ・アジア～」の2つのトークイベントを実施した。アフリカフェアは、アフリカからの留学生やアフリカに造詣の深い学内教員、学外有識者を講師として、アフリカをテーマとするイベントを全5回開催した。国際協力トークショー～アフリカ・アジア～は、学内外から講師を招き、アフリカとアジアに共通するテーマを設定して国際協力の観点から講演を実施するもので、全4回開催した。

【特に優れた取組】

「アフリカフェア」の講演は英語で実施され、学生には英語に触れる機会を提供することが出来たことに加え、全学的にアフリカへの興味・関心を醸成する機会を提供出来た。また、「国際協力トークショー～アフリカ・アジア～」の講演は日英のバイリンガルで実施され、様々な分野の講師から話題を提供していただくことにより、多角的な視点を養う機会を提供出来た。

（２）特記すべき成果

・大学間国際交流協定の締結

大学の方針と国際戦略を直接反映できる体制へと見直したことにより、ナイロビ大学との大学間国際交流協定の締結を結ぶことが出来た。

・アフリカ出身留学生の増加

世界展開力強化事業の活発化により、アフリカ出身の留学生数が2020年度の5人から2023年度には23人、国籍も5ヵ国から10ヵ国と大幅に増加し、大学の国際化に貢献した。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

山口大学・ナイロビ大学の両教員によるオンライン共通講義を開講した。共通講義は、山口大学からは日本、アジアの感染症を、ナイロビ大学からはケニア、アフリカの感染症に関するトピックを挙げた。講義科目としては、「国際感染症学」に加え、「熱帯獣医学Ⅰ」を追加し、さらに、鹿児島大学、岐阜大学にも講義を提供することで、講義科目の増加、及び参加大学の拡大がみられた。

2. 交流学生数の実績等【（１）と（２）は各３ページ以内】

（１） 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移							
① 日本人学生数の達成目標							
●申請時の計画調書記載人数							
	学生別	2020年度		2021年度		2022年度	
小計2		0	人	16	人	16	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	4	人	4	人
	30日未満	A（学部生）	0	人	4	人	人
	30日以上3ヶ月未満						人
	3ヶ月以上						人
上記以外の派遣学生数		0	人	12	人	12	人
	30日未満	A（学部生）		10	人	10	人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）		2	人	2	人
	3ヶ月以上						人
●海外相手大学追加調書分							
	学生別	2020年度		2021年度		2022年度	
小計2		0	人	0	人	0	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人
上記以外の派遣学生数		0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人
●合計人数							
		2020年度		2021年度		2022年度	
合計人数（A=小計1+2）		0	人	16	人	16	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	4	人	4	人
	30日未満		人	4	人	4	人
	30日以上3ヶ月未満		人	0	人	0	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人
上記以外の派遣学生数		0	人	12	人	12	人
	30日未満		人	10	人	10	人
	30日以上3ヶ月未満		人	2	人	2	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人

② 日本人学生数の実績

			学生別			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)						0人			19人			28人			40人			0人		
							0人		0人	19人	0人	10人	18人	0人	9人	27人	4人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数							0人		0人	8人	0人	8人	3人	0人	2人	0人	4人	0人	0人	0人
	30日未満	A（学部生）					人		人	8人	人	8人	3人	人	2人	人	4人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満						人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上						人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数							0人		0人	11人	0人	2人	15人	0人	7人	27人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A（学部生）					人		人	11人	人	人	15人	人	4人	27人	人	人	人	人
	30日未満	B（大学院生）					人		人	人	人	2人	人	人	3人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満						人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上						人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合（B/A）									118.8%			175.0%			250.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2023年度は、2022度に引き続き実渡航を伴う学生交流が実施できた。中間評価でも指摘されたように、特に実渡航を伴う派遣学生数の拡大が課題となっていたことから、獣医系学部を持つ他大学や学内他学部への展開を進め、2023年度の9月派遣時には他大学から2名が参加した。さらに学内の国際総合科学部の学生2名を派遣することで、全学的な交流につなげることができた。

加えてオンライについては、「国際感染症獣医学」に加え、2023年度に感染症以外の獣医学に関連する内容を扱った「熱帯獣医学Ⅰ」を新設し、オンライン講義の拡充を図った。同科目と、既存の「国際感染症獣医学」については、本学共同獣医学部と相互補完型の教育体制を行っている鹿児島大学共同獣医学部でも科目化されることとなった他、獣医系他大学にも提供を開始した。また、正課外でアフリカフェアや国際協力機構(JICA)と連携したトークショーといったアフリカ地域に対する興味関心を醸成するイベント実施により大学全体にアフリカとの交流に対する機運を高め、学内外で受講者数の増加を図っている。

【特に優れた取組】

国際総合科学部の学生2名の派遣にあたっては、AA Health Dynamics社と連携し、「課題解決力開発ワークショップ」という独自のプログラムを盛り込み、学部の特色を活かした、プログラムを実施した。令和6年度においては、医学部の学生3名を派遣予定であり、順調に派遣人数の増加、他分野への拡大が進んでいる。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計3		0	人	16	人	16	人	16	人	16	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	4	人	4	人	4	人	4	人
	30日未満	A（学部生）	人	4	人	4	人	4	人	4	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数		0	人	12	人	12	人	12	人	12	人
	30日未満	A（学部生）	人	10	人	10	人	10	人	10	人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）	人	2	人	2	人	2	人	2	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計4		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人	人	人	人	人

●合計人数

		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
合計人数（C=小計3+4）		0	人	16	人	16	人	16	人	16	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	4	人	4	人	4	人	4	人
	30日未満		人	4	人	4	人	4	人	4	人
	30日以上3ヶ月未満		人	0	人	0	人	0	人	0	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人	0	人	0	人
上記以外の受入学生数		0	人	12	人	12	人	12	人	12	人
	30日未満		人	10	人	10	人	10	人	10	人
	30日以上3ヶ月未満		人	2	人	2	人	2	人	2	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人	0	人	0	人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数（D）				0人			8人			9人			63人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人		0人	8人	0人	9人	0人	0人	4人	59人	0人	0人	0人	0人	
単位取得を伴う受入学生数					0人		0人	8人	0人	8人	0人	0人	4人	4人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A（学部生）			人		人	8人	人	8人	人	人	4人	4人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数					0人		0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	55人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A（学部生）			人		人	人	人	人	人	人	55人	人	人	人	人	人
	30日未満	B（大学院生）			人		人	人	人	1人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合（D/C）							50.0%			56.3%			393.8%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

受入については、9月4日から9月15日にかけて、ナイロビ大学獣医学部のⅢ期生4名を受け入れた。受入前には京都大学の協力を得て同大学が提供する日本語プログラム入門コースを、来日後は本学日本語教員による日本語の授業を受講した。

オンラインでの講義受講については、現地ナイロビ大学の教員を通じた告知の徹底により、「国際感染症獣医学」及び「熱帯獣医学Ⅰ」のいずれも大幅な受講者増につながった。

【特に優れた取組】

ナイロビ大学の学生を受け入れ時には、本学共同獣医学部4年生と合同で実習を行った。バイオセーフティレベル（BSL）-2およびBSL-3実験室等、本学の有する設備を用いた実習はナイロビ大学生の満足度も高く、ケニアでは体験できない研究・診断に接する機会を提供することができ、両学生にグローバルな感覚を身に着けるきっかけとなる有意義なものとなった。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（４）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（い）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】（単位：校）

単位互換を実施する海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			1	1	1	1	1	1	1	1

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 山口大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ナイロビ大学	認定者数	A（学部生）	0	4	4	4	4
	認定単位数		0	5	5	5	5
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	4	4	4	4
年度別認定単位数合計			0	5	5	5	5

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0		0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（い）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】（単位：校）

単位互換を実施した海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0		

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 山口大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ナイロビ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数		0	0	0	0	
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	北海道大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ザンビア共和国		
事業名	【和文】	アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム ～ザンビア - 北大の頭脳循環成果を基盤として～		
	【英文】	International Veterinary and Conservation Medicine Education Program: Building upon generations of collaboration between University of Zambia and Hokkaido University for the future of Africa-Japan relations		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	滝口 満喜	(所属・職名) 獣医学研究院・研究院長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://africa.vetmed.hokudai.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で1ページ以内、（３）と（４）で2ページ以内、（５）と（６）で2ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 本事業はザンビア大学と協働しOne Healthに貢献し国際的かつ分野横断的な視点で保全医学を担う人材育成を目的としている。2023年度は第2回の実渡航を伴うプログラム実施となった。ザンビア大学の学生4名、北海道大学の学生8名がそれぞれの国に約2週間渡航し、環境管理や野生動物保全を中心に座学とフィールド演習を組み合わせたプログラムに参加した。並行してオンラインコースも設置し関連イベントへの参加も合わせて両大学から学生が受講した。
【特に優れた取組】 本事業はザンビア大学と北海道大学で保全医学を担う人材育成を目的とし分野を問わず学生を募集している。多様な学生の専門性を活かし学び合うために、北海道大学で学生からの希望が多かった分野の研究ユニットでの集中的なトレーニングやザンビア大学での各自のプロポーザルに基づく課題探求活動など学生が主体的に計画／活動する期間を設けた。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 本事業ではルーブリックを用いるコンピテンシー評価を取り入れており、参加学生が自覚的に学修成果を伸ばすことが可能である。2023年度は中間評価における意見を反映してルーブリックの改訂を行い、学生と担当教職員による渡航前後の評価を行った。また、過年度のプログラム参加者に対しては同窓会立ち上げ、継続的な情報提供および人材交流の枠組みを用意している。
【特に優れた取組】 ルーブリック評価では特に「One Healthの知識」に関する項目でプログラム実施前後の能力向上が高く、異分野融合的なプログラムを通じて多様なバックグラウンドを持つ参加者の学習を促進できた。また、 <u>ザンビア大学から2022年度に本プログラムへ参加した学生が2023年度の北海道大学からの派遣学生の活動を現地でサポートするなど、人材交流と頭脳循環のサイクルが形成されている。</u>
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 分野横断的に多様な学生が参加できるよう、両大学で全学的に学生を募集した。ザンビア大学では全学の国際交流担当者と連携し、北海道大学では大学院共通授業科目としてシラバスをWEBサイトに掲載した。また、ハイブリッド形式で全学向けに募集説明会を行い、ザンビア大学からは2部局、北海道大学からは文理を横断した7部局から学生が参加した。渡航前のサポートとしてザンビア大学の学生向けには日本文化や日本語、日本における保全医学に関する課題などについてのオンデマンド教材を提供し、北海道大学の学生向けには海外安全管理セミナーやザンビア人教員からの事前レクチャーを提供した。
【特に優れた取組】 保全医学を軸に両大学から多様な学生が参加できるよう、文理の枠を超えた幅広い分野の教員とともに授業の提供や現地での活動支援を行なった。ザンビアへの派遣前には事務職員を含めたプログラム引率担当が渡航して現地カウンターパートとの連携強化や学生の受入先の新規開拓を行った結果、多様な活動内容の確保につながった。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 北海道大学のホスティングサーバーに日英表記のWEBサイトを構築し共催イベントを含めた情報提供と成果報告掲載を継続して行った。また、2023年度の受け入れおよび派遣の活動を学生のレポートを中心にまとめた日英表記の報告書を100冊作成し両大学および関係機関に配付した。同内容は電子版としてWEBサイトにも掲載した。 また、周辺国へのプログラムおよび日本とアフリカ諸国の協働に関する水平展開としてボツワナ共和国の大学及び諸機関を訪問し2024年度以降の活動について協議したほか、関連オンラインセミナーやイベントについてはMOU締結済みのナミビア大学などからも参加者を募った。
【特に優れた取組】 <u>プログラムの水平展開に関して、2024年3月にはボツワナ農業天然資源大学と本プログラムのオンラインコース実施を軸とした教育及び研究活動に関するMOUを締結した。</u> 2024年2月には北海道大学ロバスト研究拠点と合同でOne Health Workshop -Sustainable Food and Energy-をザンビア大学にてハイブリッド形式で実施し、ナミビア大学及びザンビア国内の他大学からも参加者があり、学内のプログラムとの融合とザンビア周辺国への水平展開を両輪で進める試みを行っている。

(2) 特記すべき成果
本プログラムは2週間の短期滞在プログラムではあるが、学生の希望に応じたプログラム編成で教員との密接なコミュニケーションの機会を設けたり、帰国後もコミュニケーションを図ることにより過年度のプログラム参加者が北海道大学での博士号取得プログラムに採択されるなど、修了生との継続的な関係性が大学の国際化および研究活動の活性化に貢献している。
(3) オンラインを活用した工夫・改善点
■北海道大学、ザンビア大学学生が利用するオンラインコンテンツとして、10コースを整備した。コンテンツについては一部を除きLMSに公開し、学生がアクセスできるように整えた。 ■受入学生は渡航前にオンラインで事前下調べ学習の成果報告プレゼンテーションを行い、北海道大学の教員からフィードバックを得て実際の日本での活動における背景知識の充実を図ることができた。また、派遣学生の渡航前学習として開講した授業ではハイブリッド方式やオンデマンド視聴を組み合わせ、さまざまな学年／部局から参加する学生全員の知識レベルの底上げを図れるよう柔軟な対応を行った。 ■オンライン授業の提供に関しては時差を考慮し原則オンデマンド方式としている。2023年度からは双方向性の高いプラットフォームへの切り替えを行なった。次年度以降はより学生からのアウトプットを引き出せるような教材構成への更新やフィードバックの充実を図る。

2. 交流学生数の実績等 【（１）と（２）は各3ページ以内】

（１） 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計2		4	人	18	人	18	人	18	人	18	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	8	人	8	人	8	人	8	人
	30日未満	B（大学院生）	0	人	8	人	8	人	8	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）	0	人	0	人	0	人	0	人	人
	3ヶ月以上	B（大学院生）	0	人	0	人	0	人	0	人	人
上記以外の派遣学生数		4	人	10	人	10	人	10	人	10	人
	30日未満	B（大学院生）	4	人	10	人	10	人	10	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）	0	人	0	人	0	人	0	人	人
	3ヶ月以上	B（大学院生）	0	人	0	人	0	人	0	人	人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計2		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人		人		人
上記以外の派遣学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人		人		人

●合計人数

		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
合計人数（A=小計1+2）		4	人	18	人	18	人	18	人	18	人
単位取得を伴う派遣学生数		0	人	8	人	8	人	8	人	8	人
	30日未満		人	8	人	8	人	8	人	8	人
	30日以上3ヶ月未満		人	0	人	0	人	0	人	0	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人	0	人	0	人
上記以外の派遣学生数		4	人	10	人	10	人	10	人	10	人
	30日未満		人	10	人	10	人	10	人	10	人
	30日以上3ヶ月未満		人	0	人	0	人	0	人	0	人
	3ヶ月以上		人	0	人	0	人	0	人	0	人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				15人			18人			19人			22人			0人		
				実渡航	オンライン	ハイブリッド		15人		0人	18人	0人	8人	10人	1人	8人	14人	0人
単位取得を伴う派遣学生数																		
30日未満			B（大学院生）															
30日以上3ヶ月未満			B（大学院生）															
3ヶ月以上			B（大学院生）															
上記以外の派遣学生数																		
30日未満			B（大学院生）															
30日以上3ヶ月未満			B（大学院生）															
3ヶ月以上			B（大学院生）															
達成目標に対する 実績の割合（B/A）				375.0%			100.0%			105.6%			122.2%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

- 北海道大学からは大学院生8名が参加した。事前事後学習を含めて大学院共通授業科目として開講し、参加学生の専攻は工学、食資源、環境科学、文学、獣医学、感染症学と分野横断的で、学生間で専門性を活かし相互に学び合った。
- 事前学習ではコロナ禍での世界情勢の変容を踏まえ、外部講師による安全管理セミナーを開催した。また、JICAザンビア事務所より国際協力に関する特別レクチャーを提供いただき、国際協力分野でのキャリアパスを含めた内容が取り扱われた。加えて、Academic Englishの授業として英語で異分野の学生や教員とコミュニケーションを取るトレーニングや保全医学に関する基本的な概念や知識などのレクチャーを行なった。今年度は保全医学に関する専門用語やザンビアで訪問する場所の背景知識のインプットも強化することで現地での学びの質を高めるられるよう実施方法を改善した。
- ザンビアでの活動においてはザンビア大学の教員のみならず、JICAザンビア事務所、在ザンビア日本国大使館、国立公園の管理官、民間の鉱山会社など多様なカウンターパートの協力を得て保全医学に関するザンビアおよびアフリカ全土での課題について多面的に学ぶ機会を提供した。
- 事後学習では学生による活動内容の報告会とレポート作成を行い、レポート内容は2023年度活動報告書として公表した。
- オンライン受講者には北海道大学で提供される授業のオンデマンド視聴に加えて、実渡航学生が参加する事前／事後学習にも参加し国内にいながらザンビアの文化や課題について学ぶ機会を提供した。
- 今回のプログラムでは、北海道大学One Healthフロンティア卓越大学院において様々な分野の学生を取り込むAllyコースとも連携しており、プログラム内容にはAllyコースの学生も参加した。これにより参加者の多様性に加えて英語話者の参加比率が増え、日本人学生の英語でのコミュニケーションが促進されるなどの副次的な効果があった。

【特に優れた取組】

活動のうち3日間を学生自ら企画しカウンターパートと活動する課題探求活動に充てた。活動のテーマは野生動物管理，感染症研究，農村での人間と動物の軋轢，アントレプレナーシップなどについて多岐に渡り，各自の専門性やキャリアパスと保全医学を結びつけて課題解決手法を考える機会となった。カウンターパートと密接にやり取りしながら活動を行う中でザンビア特有の社会背景を含めて保全医学に関する知識や関心が高まったとして学生から高く評価された。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		8人	14人	14人	14人	14人
単位取得を伴う受入学生数		0人	4人	4人	4人	4人
	30日未満	B（大学院生）0人	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	B（大学院生）0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の受入学生数		8人	10人	10人	10人	10人
	30日未満	B（大学院生）8人	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	B（大学院生）0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（C=小計3+4）		8人	14人	14人	14人	14人
単位取得を伴う受入学生数		0人	4人	4人	4人	4人
	30日未満	0人	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人
上記以外の受入学生数		8人	10人	10人	10人	10人
	30日未満	8人	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数（D）				13人			9人			27人			26人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		13人			0人	9人	0人	4人	7人	16人	4人	8人	14人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	7人	0人	4人	4人	0人	4人	2人	0人	0人	0人	0人
30日未満			B（大学院生）	0人			0人	7人	0人	4人	0人	0人	4人	0人	0人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満			B（大学院生）	0人			0人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	2人	0人	人	人	人
3ヶ月以上			B（大学院生）	0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
上記以外の受入学生数				13人			0人	2人	0人	0人	3人	16人	0人	6人	14人	0人	0人	0人
30日未満			B（大学院生）	13人			0人	2人	0人	0人	0人	16人	0人	0人	14人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満			B（大学院生）	0人			0人	0人	0人	0人	3人	0人	0人	6人	0人	人	人	人
3ヶ月以上			B（大学院生）	0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）				162.5%			64.3%			192.9%			185.7%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

■ザンビア大学からは大学院生4名が日本に実渡航し受講した。参加学生の専攻は獣医学部及び教育学部で、感染症対策や数学教育の研究背景を持ちプログラムに臨んだ。事前事後学習を含めて北海道大学の大学院共通授業科目を履修し全員に3単位が付与された。

■ザンビア大学からの渡航学生は北海道大学でChemical Hazard Contarol Expert(CHCE)の授業を受けたほか、札幌市内の豊羽鉱山において鉱水の浄化処理や鉱滓の管理手法を学んだり、釧路猛禽類医学研究所や知床国立公園におけるフィールド演習で生態系保全やヒトと動物の軋轢の実態と対策などについて学んだりした。鉱山周辺での環境汚染の管理や野生動物とヒトとの軋轢の解消はザンビアにおいても共通する社会課題であり、自国との比較を通して学びを深められるテーマ設定を行った。

■オンライン授業は8名が受講し、うち2名に3単位が付与された。オンライン授業の提供に関しては時差を考慮し原則オンデマンド方式とした。2023年度からは双方向性の高い新規プラットフォームを導入した。また、渡航学生の事前事後学習においてリアルタイムで接続する機会にはオンライン学生にも参加させ、北海道大学の学生や教員とリアルタイムで接続して行う機会を確保した。

■CHCEの授業はオンデマンド化して実渡航学生とオンライン学生に共通して提供した。また、受験要件を満たした学生3名は最終提出課題および口頭諮問にも臨み、うち1名がオンライン版としてiCHCEの認定を受けた。

■北海道大学ロバスト研究拠点と合同でOne Health Workshop -Sustainable Food and Energy-をザンビア大学にてハイブリッド形式で実施した。ザンビア大学からは14名が参加し、オンライン学生として受講証明書を発行した。

■工学、保健・医学、経済、理学、地球環境、食資源、農学、獣医学、感染症学、情報科学など幅広い教員に加え民間企業からも授業の提供やフィールドでの活動支援を受け異分野連携のプログラムを実践した。

【特に優れた取組】

活動のうち3日間を学生が希望する研究室にて活動を行うラボローテーションに充てた。パイオインフォマティクスを中心に複数の研究室で実験手技や最新の研究動向について集中的に学んだほか、学生が個別に面談を希望する教員にも紹介しディスカッションの機会を提供した。実験環境が整っていないケースが多いザンビア及びアフリカ諸国の学生にはコンピューターベースで行えるパイオインフォマティクスやCHCEの中で実習として取り組んだGIS(地理情報システム)情報解析の手法は学習のニーズや各自の専門分野への応用可能性が高く、次年度以降も内容の充実を図る。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】(単位：校)											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)											
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学【大学名：北海道大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0	8	8	8	8				
	認定単位数	B (大学院生)	0	24	24	24	24				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	8	8	8	8				
年度別認定単位合計			0	24	24	24	24				
2. 国内連携大学【大学名：大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0				

【2023年度末における目標の達成状況】											
(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】(単位：校)											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	1	1	1	1	1	1			
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)											
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学【大学名：北海道大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0	12	8	8					
	認定単位数	B (大学院生)	0	20	24	24					
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	12	8	8	0				
年度別認定単位合計			0	20	24	24	0				
2. 国内連携大学【大学名：大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0				

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○秋田大学、九州大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	南アフリカ共和国、ザンビア共和国、モザンビーク共和国、ボツワナ共和国		
事業名	【和文】	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成		
	【英文】	An innovative program for development of core human resources for smart mining to lead sustainable resource development in Southern Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	柴山 敦	(所属・職名) 国際資源学研究科 研究科長・教授	
	(交替年月日)	令和6年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

(日本語版) <https://www.akita-u.ac.jp/shigen/iuep-w-safrica/jp/>

(英語版) <https://www.akita-u.ac.jp/shigen/iuep-w-safrica/en/>

1. 取組内容の進捗状況 【(1)と(2)で1ページ以内、(3)と(4)で2ページ以内、(5)と(6)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は学生へ向けて「海外資源フィールドワーク」、「ショートステイプログラム」、「日本語・英語語学研修」、「バーチャルトラベリングクラス」、「資源情報学の基礎」、「日阿協働研修2」、「日阿協働チーム研究」、「日阿協働研修1」の8プログラムを提供した。このうち、「海外資源フィールドワーク」、「ショートステイプログラム」、「日阿協働研修2」、「日阿協働チーム研究」においては対面での人的交流が実現し、全プログラムが英語で行われた。これらのプログラムは資源開発を広範に学ぶ機会を提供し、スマートマイニングへの理解を深めるための重要な研修となった。

【特に優れた取組】

対面での人的交流の他にオンデマンド講義（「日本語・英語語学研修」、「バーチャルトラベリングクラス」、「資源情報学の基礎」）とハイブリッド講義（「日阿協働研修1」）も組み合わせることにより、交流を十分に行いつつ、安全かつ不測の事態にも対処が可能なプログラムを構築し、実施することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

実行委員会と運営委員会をそれぞれ開催し、教育プログラムの点検評価と改善、教育教材・手法の開発等、体制整備を進め、教育の質を保証するよう努めた。最初にプログラムに参加した学生が修了年度を迎えるにあたり、日本・アフリカの関係大学ともプログラム内容を擦り合わせ、学習コンテンツの質をさらに向上させるための協議を重ねた。実行委員が修了予定者案を作成し、運営委員会が承認を行い、対象者にプログラム修了証書を発行する形で質の保証を確立した。

【特に優れた取組】

最初にプログラムに参加した学生が修了年度を迎えるにあたり、運営委員会において日本・アフリカの双方大学の参加学生の進捗状況、および一連のカリキュラムの確認を丁寧に行い、足並みを揃えながら進めた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

オンラインによる学習コンテンツ実行のためのツールとして導入した学習管理システムGOOCUSのデータ整備を行い、本プログラムに合わせて学生が使用できる学習コンテンツの充実及びオンライン講義実施のため、環境整備の改善に努めた。南部アフリカ大学側の学生へ本プログラムの周知を強化するよう、英語版パンフレットを推敲し、再版した。具体的には、南部アフリカ大学側の学生が本プログラムに関する問い合わせ先として、本プログラム事務局のメールアドレスを追記し、いつでも情報提供ができる体制を整えた。

【特に優れた取組】

Learning Management Systemとして導入したGOOCUSのデータ整備を行い、本プログラムに合わせて日本・アフリカの学生が使用できる学習コンテンツの充実及びオンライン講義実施に向けて環境整備の改善に努めた。英語版パンフレットに本プログラム事務局のメールアドレスを追記し、随時情報提供ができるよう整備した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業ホームページにおけるプログラムの取り組みや募集要項の掲載、および学生ガイダンスの実施により本プログラムの情報提供を積極的に行い、新規のプログラム参加学生の獲得へ繋げた。さらにホームページのデザインを一新し、2023年度のプログラムで撮影した写真やプログラムを修了した学生の感想等を掲載することで情報の共有・広報に努めた。また国際ワークショップ、日本アフリカ組織・大学交流会、資源・素材学会等へ出席し、本プログラムの骨子およびグッドプラクティスの紹介を積極的に行った。

【特に優れた取組】

本事業ホームページにおけるプログラムの取り組みや募集要項の掲載、および学生ガイダンスの実施により本プログラムの情報提供を積極的に行った。

（２）特記すべき成果

「日阿協働研修2」においては、プログラム参加学生全員が実地で南アフリカのヴィットウォーターズランド大学を訪問し、鉱山への訪問、見学、研修も入念な準備のもと実施された。訪問した鉱山は、金鉱山、白金鉱山、石炭鉱山であり、特に金鉱山と白金鉱山は日本ではもちろんのこと、世界でも南アフリカでしか経験できない採掘深度と採掘方法を実地で学ぶことができた。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

語学教育である「日本語・英語語学研修」、資源学教育「バーチャルトラベリングクラス」、情報学の基礎教育「資源情報学の基礎」は、e-LearningシステムであるGOOCUSを利用したオンデマンドのオンライン講義を提供し、各々の学生の裁量で受講を可能とした。また「日阿協働研修1」はハイブリッド形式の講義を提供し日阿両学生が受講可能とし、日阿混合チームによるディスカッション形式の実習では各班に用意したノートパソコン・スピーカー・マイクを通して議論を深めることができた。改善点としては、e-Learningシステムを用いる際学生の履修状況管理を定期的に行う必要がある。

2. 交流学生数の実績等【（１）と（２）は各３ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	10人	40人	65人	65人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	10人	40人	65人	65人
	30日未満	A（学部生）	0人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）	0人	0人	20人	35人
	3ヶ月以上	B（大学院生）	0人	0人	10人	20人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満		0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（A=小計1+2）		0人	10人	40人	65人	65人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	10人	40人	65人	65人
	30日未満		10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満		0人	20人	35人	35人
	3ヶ月以上		0人	10人	20人	20人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満		0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0人			10人			21人			41人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド			0人		0人	10人	0人	10人	0人	11人	19人	11人	11人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数					0人		0人	10人	0人	10人	0人	11人	19人	11人	11人	0人	0人	0人
	30日未満				0人		0人	10人	0人	10人	0人	11人	19人	11人	11人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
	3ヶ月以上				0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
上記以外の派遣学生数					0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満				0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
	3ヶ月以上				0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)							100.0%			52.5%			63.1%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2023年度は海外資源フィールドワークと日阿協働研修2において、実渡航によって南アフリカとボツワナに合計19名を派遣した。2024年度は20名程派遣する見込みである。

【特に優れた取組】

事前学習を実施した。派遣学生に対して複数回の事前ミーティングを行い、現地に関する情報（危険性に関する事項を含む）を調査し、派遣メンバー間で共有した。その結果、全員が問題や困りごとなく現地での活動を遂行することができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		0人	10人	50人	60人	60人
単位取得を伴う受入学生数		0人	10人	50人	60人	60人
	30日未満	A（学部生）0人	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	B（大学院生）0人	0人	20人	30人	30人
	3ヶ月以上	B（大学院生）0人	0人	20人	20人	20人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（C=小計3+4）		0人	10人	50人	60人	60人
単位取得を伴う受入学生数		0人	10人	50人	60人	60人
	30日未満	0人	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	20人	30人	30人
	3ヶ月以上	0人	0人	20人	20人	20人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (D)				0人			11人			19人			31人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人			0人	11人	0人	0人	10人	9人	15人	8人	8人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	11人	0人	0人	10人	9人	15人	8人	8人	0人	0人	0人
30日未満				0人			0人	11人	0人	0人	10人	9人	15人	8人	8人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
3ヶ月以上				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
上記以外の受入学生数				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
3ヶ月以上				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)							110.0%			38.0%			51.7%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2023年度はショートステイプログラムと日阿協働チーム研究において、実渡航によって南部アフリカから合計15名を受け入れた。2024年度も同様に約15名の留学生を受け入れる予定。

【特に優れた取組】
「日阿協働チーム研究」で、AI機械学習を資源開発に応用することを目的に実施し、機械学習を参加学生自身が扱えるようになるためのプログラミング手法の教授を行った後に、グループごとに選択式の特定課題を選択し機械学習を適用するチーム研究を行った。学生によってはプログラミングが不得手な学生もあり、レベル差が生まれないようにTAを活用して補助を行い、すべての参加学生が機械学習を自身で活用できるようにトレーニングを行った。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（４）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】（単位：校）											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5	
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）											
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 秋田大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11				
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11				
テテ工科大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
テテ工科大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11				
ボツワナ大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4				
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11				
年度別認定者数合計			0	8	33	58	58				
年度別認定単位合計			0	20	45	75	75				

【2023年度末における目標の達成状況】											
（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】（単位：校）											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	1	5	2	0	2	0			
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）											
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 秋田大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A（学部生）	0	6	5	4					
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4					
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	5					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	2					
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0					
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
テテ工科大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0					
テテ工科大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0					
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ボツワナ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	5	5					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	4	4					
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
年度別認定者数合計			0	6	10	14	0				
年度別認定単位合計			0	4	8	10	0				

2. 国内連携大学 【大学名： 九州大学】							
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	0
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	0
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	0
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	0
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11
テテ工科大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	0
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	0
テテ工科大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11
ボツワナ大学	認定者数	A（学部生）	0	1	1	1	1
	認定単位数	A（学部生）	0	4	4	4	4
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	5	10	10
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	5	11	11
年度別認定者数合計			0	2	27	52	52
年度別認定単位合計			0	8	33	63	63

2. 国内連携大学 【大学名： 九州大学】							
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A（学部生）	0	4	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	4	0	0	
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	5	
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	2	
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	
テテ工科大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
テテ工科大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	
ボツワナ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	
年度別認定者数合計			0	4	0	5	0
年度別認定単位合計			0	4	0	2	0

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学			
主たる交流先	アフリカ諸国			
事業名	【和文】	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム		
	【英文】	Triangular Study Abroad Program for Reciprocal Partnership with North and Sub-Saharan Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	金子 慎治	(所属・職名)	理事・副学長（グローバル化担当）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	エジプト日本科学技術大学	Egypt-Japan University of Science and Technology	エジプト
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

(日本語版) <https://triangle-africa.hiroshima-u.ac.jp/>
(英語版) <https://triangle-africa.hiroshima-u.ac.jp/en/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）と（６）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本事業は、北アフリカ地域のエジプトの５大学、サブサハラ地域のザンビア大学とマラウイ大学の計７大学と共同で、アフリカを質の高い経済成長へ導くための教育、保健医療、食料安全保障の戦略３分野のトライアングル海外学習プログラムを展開する。そして、日本とアフリカを繋ぐだけでなく、アフリカ地域間の架け橋として、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮し、質の高い経済発展を主導する人材を日本とアフリカの双方に育成する。2023年度は、COIL型教育に広島大学から50名、アフリカの大学から84名が参加した。また、中期（セメスター）留学については、2023年10月～2024年3月までアフリカから7名の学生を受け入れ、2023年9月～2024年2月までカイロ大学に1名、2023年2月～7月までザンビア大学に1名を派遣した。さらに、2023年9月2日～9月13日の12日間、本学の学生12名をエジプトに、2024年2月24日～3月8日の14日間、10名をマラウイ・ザンビアに短期派遣した。

【特に優れた取組】

COIL型教育では計画以上の学生が参加し、講義・グループワークを通じ、多様性理解・複数他者理解を深化させることができた。半年間受け入れたアフリカからの学生7名については、日本語の基礎学習、専門分野の学習・研究に加え、民間企業も訪問し、幅広く日本社会について学ぶことができた。アフリカに短期派遣した本学学生22名は、協定校に加え、JICA事務所及び事業地を訪問することで重点分野をカバーするとともに、国際協力の実相に触れることができた。初めてカイロ大学にセメスター派遣した学生は、環境について学び単位を取得し、帰国後、単位互換が実現した。また、セメスター受入したカイロ大学からの学生2名は、本学で取得した単位の一部を母校で互換できた。さらに、初めてマラウイに学生10名を短期派遣することができた。また、マラウイ大学から初めてセメスター受入することができた。これにより、アフリカ３ヵ国と実渡航を伴う学生交流を実現できた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本学とアフリカ７大学の合同・個別会議を通じて、本事業の到達目標、学生の受入方針、カリキュラム方針（学習内容・評価基準）、修了方針について確認した。自己点検・評価と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上に取り組んでいる。個別の教育プログラムについても、学生の自己点検と授業評価アンケート、BEVIテスト等を確認することで、授業内容や方法の有効性を検証しプログラムの改善を図っている。

【特に優れた取組】

コロナ禍で中断していたザンビア大学との教育分野合同研究発表セミナーをザンビア大学で実施した。また、さくらサイエンスプログラムで「持続可能な開発目標（SDGs）達成のための国際サマースクール」を本学で開催し、カイロ大学の農学部長および学生も参加した。また、外部評価委員より、プログラム改善に関する助言を得たことで、改善に向けた取り組みを検討することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業責任者である理事・副学長の下に事業実施部会を設置し、事業実施コーディネーター、学内関係教員及び事務担当者が協議のうえで事業を推進している。本学の国際室内に、本事業を専属で担当する職員を配置し、事業支援と学内調整を行っている。また、本学とアフリカ７大学の合同・個別会議を通じて、スムーズな学生交流のための日程・時間調整等を行うとともに、派遣・受入学生の安全を確保するため各国の治安・感染症等の情報を収集する体制を構築している。

【特に優れた取組】

事業実施部会に、アフリカとの連携実績のある教員が参画しており、アフリカから7名の学生を半年間受け入れる際も、適切な受け入れ体制を整えることができた。短期派遣および中期派遣を実施する際も、これまでの連携実績に基づき、円滑な派遣を実施することができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

プログラム専用のウェブサイトの日英2言語で開設し、国内外に広く本事業の進捗・成果を発信した。2023年5月には学内の留学促進イベント「留学WEEK」において本事業の紹介、アフリカへの留学について説明した。また、2024年3月には国際交流イベントにてブースを出展し、エジプト・ザンビア・マラウイの国情、本事業の内容等について紹介した。また、2023年12月には、アフリカからの学生等向けにキャリア・セミナーも開催し、民間企業との連携を促進した。

【特に優れた取組】

専用ウェブサイトでの発信に加え、学内誌での事業紹介、「留学WEEK」や国際交流イベントを通し、本事業の取り組みを積極的に紹介、周知することができた。特に短期派遣プログラムに関心を示す学生は多く、2023年度は計22名をアフリカへ短期派遣することができた。また、キャリア・セミナーでの民間企業との交流を通じ、アフリカからの学生の日本企業に対する理解促進、関心向上につなげることができた。

(2) 特記すべき成果

年度計画(105名)を上回る165名の学生交流を実現し、本学の国際化に貢献することができた。広報活動を通し、本事業の取り組みを広く周知し、アフリカに対する関心を喚起することができた。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

COIL型教育では、時差等を考慮し、講義を録画し共有することで、ライブで参加できなかった学生も自習し、キャッチアップできるようにしている。また、グループワークの際には、原則、TAを各グループに1名配置し、グループ内バランスを考慮することで、専門分野、英語力等が異なるグループメンバーが、お互い支え合い、学び合える環境作りに努めている。

2. 交流学生数の実績等 【（１）と（２）は各３ページ以内】

（１） 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		人	42人	42人	42人	42人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	42人	42人	42人	42人
	30日未満	A（学部生）	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	A/B（学部生または大学院生）	26人	26人	26人	26人
	3ヶ月以上	B（大学院生）	6人	6人	6人	6人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満		0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	1人	1人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	1人	1人
	30日未満		0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	A/B（学部生または大学院生）	0人	0人	1人	1人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満		0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満		0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（A=小計1+2）		0人	42人	42人	43人	43人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	42人	42人	43人	43人
	30日未満	0人	10人	10人	10人	10人
	30日以上3ヶ月未満	0人	26人	26人	26人	26人
	3ヶ月以上	0人	6人	6人	7人	7人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0人			28人			21人			74人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人			1人	27人	0人	10人	11人	0人	24人	50人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数				0人			1人	27人	0人	10人	11人	0人	24人	50人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A(学部生)		0人			0人	0人	0人	10人	0人	0人	22人	0人	0人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	A/B(学部生または大学院生)		0人			0人	27人	0人	0人	11人	0人	0人	50人	0人	人	人	人
	3ヶ月以上	A(学部生)		0人			1人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	人	人	人
上記以外の派遣学生数				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
	3ヶ月以上			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)							66.7%			50.0%			172.1%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2023年度は、COIL型教育に広島大学から計画を大きく上回る50名が参加した。また、中期（セメスター）留学については、2023年9月～2024年2月までカイロ大学に1名、2023年2月～7月までザンビア大学に1名を派遣した。さらに、2023年9月2日～9月13日の12日間、本学の学生12名をエジプトに、2024年2月24日～3月8日の14日間、10名をマラウイ・ザンビアに短期派遣した。

【特に優れた取組】
アフリカに短期派遣した本学学生22名は、協定校に加え、JICA事務所及び事業地を訪問することで重点分野をカバーするとともに、国際協力の実相に触れることができた。初めてマラウイに学生10名を短期派遣することができた。また、初めてカイロ大学にセメスター派遣した学生は、環境について学び単位を取得し、帰国後、単位互換が実現した。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		8人	56人	56人	56人	56人
単位取得を伴う受入学生数		0人	8人	8人	8人	8人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	B（大学院生）	8人	8人	8人	8人
上記以外の受入学生数		8人	48人	48人	48人	48人
	30日未満	B（大学院生）	8人	8人	8人	8人
	30日以上3ヶ月未満	A/B（学部生または大学院生）	0人	40人	40人	40人
	3ヶ月以上		0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	6人	6人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	1人	1人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	A/B（学部生または大学院生）	0人	0人	1人	1人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	5人	5人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	A/B（学部生または大学院生）	0人	0人	5人	5人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（C=小計3+4）		8人	56人	56人	62人	62人
単位取得を伴う受入学生数		0人	8人	8人	9人	9人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	8人	8人	9人	9人
上記以外の受入学生数		8人	48人	48人	53人	53人
	30日未満	8人	8人	8人	8人	8人
	30日以上3ヶ月未満	0人	40人	40人	45人	45人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (D)				13人			59人			86人			91人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		13人			0人	59人	0人	5人	81人	0人	7人	84人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	4人	0人	5人	0人	0人	7人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
3ヶ月以上			A/B (学部生または大学院生)	0人			0人	4人	0人	5人	0人	0人	7人	0人	0人	人	人	人
上記以外の受入学生数				13人			0人	55人	0人	0人	81人	0人	0人	84人	0人	0人	0人	0人
30日未満			A/B (学部生または大学院生)	13人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満			A/B (学部生または大学院生)	0人			0人	55人	0人	0人	81人	0人	0人	84人	0人	人	人	人
3ヶ月以上				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)				162.5%			105.4%			153.6%			146.8%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2023年度は、7名の学生（マラウイ人1名、ザンビア人2名、エジプト人4名）をアフリカから半年間受け入れた。COIL型教育には、計画を大きく上回る学生がアフリカから参加し、修了した。時差、インターネット接続等の問題が生じることもあったが、多様な文化的背景を持つ学生がオンラインで繋がり、グループワークを行うことで、学生の主体性、モチベーション維持・向上に努めた。

【特に優れた取組】
7名の受入学生は全員初来日で、当初は生活面で戸惑うことも多かったが、本学の学生がサポートすることで、学生生活にもスムーズに慣れることができた。また、来日前に2ヵ月間、オンラインで日本語の基礎を学んだことで、カルチャーショックを軽減化することができた。セメスター受入したカイロ大学からの学生2名は、本学で取得した単位の一部を母校で互換できた。さらに、COIL型教育では、原則、グループ毎に1名のTAを起用することで、多様な学生がスムーズにチームとして協働学習し易い環境を作った。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（４）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】										（単位：校）	
単位互換を実施する海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	2	6	2	6	2	6	2	6	
南北アフリカとの互惠的パートナーシップ構築のためのト											
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】Triangular Study Abroad Program for Reciprocal Partnership with North and											
金子 慎治 坪 幸・副学長（グローバル化担当）											
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 広島大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	4	4	4	4				
	認定単位数	B（大学院生）	0	32	32	32	32				
マラウイ大学	認定者数	B（大学院生）	0	2	2	2	2				
	認定単位数	B（大学院生）	0	16	16	16	16				
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	6	6	6	6				
年度別認定単位合計			0	48	48	48	48				
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0				

【2023年度末における目標の達成状況】											
（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】										（単位：校）	
単位互換を実施した海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	1	0	0	0	1	1			
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】											
（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）											
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 広島大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	1	0	0					
	認定単位数	A（学部生）	0	6	0	0					
マラウイ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
カイロ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	1					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	4					
年度別認定者数合計			0	1	0	1	0				
年度別認定単位合計			0	6	0	4	0				
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0				

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	長崎大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ケニア共和国		
事業名	【和文】	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム		
	【英文】	Planetary Health Africa-Japan Strategic and Collaborative Education (PHASE) Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	川上 純	(所属・職名)	医歯薬学総合研究科・研究科長
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/phase-program/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内，（３）と（４）で２ページ以内，（５）と（６）で２ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 （１）ケニア側4大学・機関との交流協定に基づき、全学から選考された大学院生3名を長期研修プログラムによりケニアへ派遣し、派遣先大学・機関および本学の指導教員による指導の下で研究活動を遂行し、うち1名には所属研究科において単位が付与された。また、ケニア側連携4大学・機関から各1名計4名を本学にて受け入れ、約6か月間～1年間の期間に渡って本学の指導教官の指導の下で研究活動を遂行した。プログラム修了時には成果報告会を実施し、修了証が授与された。 （２）本学から10名、ケニア側4大学・機関から計12名が参加し、9日間15コマのオンライン研修プログラムを実施した。プログラムを通して、本プログラムの目的や本学が標榜するプラネタリーヘルスの問題に関心を持つことの重要性を理解し、日本とアフリカの架け橋的人材となるための素養を深めることができた。 （３）ケニア側4大学・機関から計8名（前年度に受入予定だった4名を含む）、本学から5名の学部生・大学院生が参加し、短期研修プログラム（長崎フィールド）を実施した。参加学生は、長崎県五島市を訪れ次世代型オンライン遠隔医療システム、自然と調和した再生可能エネルギーである浮体式洋上発電所や海洋開発プロジェクト、ドローンを利用した二次離島配送事業等、多くの離島を抱える長崎と僻地を多く持つアフリカの類似点に着眼しながら、プラネタリーヘルスを体験することができた。また、本学から4名の学部生・大学院生、相手国大学・機関から各1名（計4名）が参加し、短期研修プログラム（ケニアフィールド）を11日間にわたり実施し、参加学生は、ケニアの辺縁地を訪問してアフリカでのプラネタリーヘルスを体験することができた。 （４）第4回日ケ運営委員会をオンラインで開催し、ケニア側からの事業継続と留学機会の増加の要望を確認し、予算面も含め引き続き協力体制を維持していくことを確認した。 （５）ハイブリッド形式による日ケ合同のシンポジウムを開催し、相手国大学・機関及び長崎大学の教職員及び学生が参加し、プラネタリーヘルスへの双方の取組みについて議論し学ぶことができた。
【特に優れた取組】 長期研修プログラムでは、本学からケニアへ3名を派遣、ケニア側から4名の学生を受け入れたこと、オンライン研修プログラムでは、様々な分野の所属する日ケの学生21名でプラネタリーヘルスの問題について意見交換をすることができたこと、短期研修プログラムでは、日ケの双方でそれぞれ辺縁地に赴き、体験を通じて日ケの学生が交流を深め、日本とアフリカの架け橋的人材としての素養を深めることができたことが挙げられる。合同シンポジウムの開催では、ハイブリッド開催により、本学及び相手国大学・機関におけるプラネタリーヘルスへの取組みについて議論し学ぶ機会を創出することができた。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 （１）第5回PHASEプログラム長崎運営委員会をメール会議で開催した。令和4年度に引き続き全学より選出された委員からなる運営委員会を開催することにより、全学部・全研究科に所属する学生を対象とした本プログラムへの協力体制を構築した。 （２）第4回PHASEプログラム日ケ運営委員会を各相手国大学・機関の代表者及び長崎運営委員会委員の参加により実施した。運営委員会委員長、相手国大学・機関の各代表者からの挨拶の後、令和5年度交流プログラム実施について報告した。また、令和6年度各交流プログラムの実施計画について審議した。
【特に優れた取組】 PHASEプログラム長崎運営委員会構成員に加え、ケニア側のプログラム代表者を構成員として第4回PHASEプログラム日ケ運営委員会を開催することにより、日本側・ケニア側の双方の要望や課題点を共有し、これまでの成果報告に加えて次年度の実施に向けて改善を図ることができた事が挙げられる。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 （１）JASSO等の活用による経済支援により、学業に専念できる環境を整えた。 （２）外国人学生の受入においては、本学の留学生や外国人研究者を対象とした施設である国際交流会館（宿舎）を手配することで、安全かつ利便性の高い施設に入居し、生活環境の安定性を確保した。 （３）メッセージアプリを活用し、受入・派遣学生とプログラム事務局および本学ケニア拠点との間で24時間リアルタイムで情報共有ができる環境を整えるとともに、受入学生に対しては本学の学生をチューターとして付けることにより、生活面でのサポート体制を強化した。
【特に優れた取組】 メッセージアプリの活用により、常に学生と大学側で情報共有ができる環境を整備したこと、ケニアからの学生に対しては、国際交流会館（宿舎）の手配、学生チューター制度の活用、およびJASSO奨学金により、経済面・生活面での安定性を確保できたことが挙げられる。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 KEMRI大学院とのダブルディグリープログラム開始に向けて、KEMRI側担当者と本学教員及び職員が継続的に協議を続けることにより、入学から修了までのスケジュールや単位制度及び単位互換について、具体的に検討することができた。
【特に優れた取組】 KEMRI大学院とのダブルディグリープログラム開始に向けて、KEMRI側担当者と本学教員及び職員による継続的に協議し、先行して単位互換制度を開始するための具体的な手順を確認することができた。

(2) 特記すべき成果
コロナ渦の影響によりこれまで実施できていなかった短期研修プログラム（長崎フィールド）を実施し、ケニア側から計8名（前年度に受入予定だった4名を含む）、本学から5名の学生が参加した。参加者は、長崎県五島市を訪れて次世代型オンライン遠隔医療システム、自然と調和した再生可能エネルギーである浮体式洋上発電所や海洋開発プロジェクト、ドローンを利用した二次離島配送事業等の事業を見学し、多くの離島を抱える長崎と僻地を多く持つアフリカの類似点に着眼しながら、プラネタリーヘルスを実体験し、日本とアフリカの橋渡し的人材としての意識を培った。
(3) オンラインを活用した工夫・改善点
コロナ渦により実渡航からオンライン形式に変更したものはないが、オンライン交流プログラムにおいては、グループワークを含めて教員と学生、学生どうしで双方向のコミュニケーションが含まれるプログラムを構築し、協働して活動できる機会を多く用意した。また、合同シンポジウムについてはハイブリッド形式での開催、日ケ運営委員会についてはオンライン形式での開催とすることで、シンポジウム参加者、様々な部局からなる運営委員会構成員に対して、リアルタイムで双方向的に意見・成果を共有する機会を創出することができた。

2. 交流学生数の実績等【（１）と（２）は各３ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		4人	7人	12人	12人	12人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	3人	8人	8人	8人
	30日未満	A (学部生)		5人	5人	5人
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上	B (大学院生)	3人	3人	3人	3人
上記以外の派遣学生数		4人	4人	4人	4人	4人
	30日未満	A (学部生)	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)		4人	7人	12人	12人	12人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	3人	8人	8人	8人
	30日未満	0人	0人	5人	5人	5人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	3人	3人	3人	3人
上記以外の派遣学生数		4人	4人	4人	4人	4人
	30日未満	4人	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				12人			24人			21人			17人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		12人			8人	16人	0人	10人	11人	0人	7人	10人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数				6人			5人	12人	0人	5人	5人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A (学部生)		6人			人	10人	人	人	5人	人	人	1人	人	人	人	人
	30日未満	B (大学院生)		0人			人	2人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	A (学部生)		0人			1人	人	人	1人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)		0人			1人	人	人	3人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)		人			3人	人	人	1人	人	人	1人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数				6人			3人	4人	0人	5人	6人	0人	6人	9人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	A (学部生)		4人			人	3人	人	4人	3人	人	4人	8人	人	人	人	人
	30日未満	B (大学院生)		2人			人	1人	人	1人	3人	人	人	1人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	A (学部生)		人			1人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	A (学部生)		人			1人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)		人			1人	人	人	人	人	人	2人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)				300.0%			342.9%			175.0%			141.7%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

令和5年度においては、実渡航の総数に関しては達成目標に及ばなかったが、3か月以上の長期派遣は昨年度より増加しており、オンライン派遣に関しては目標を上回る学生を派遣することができた。一方で、単位取得を伴う学生派遣数が昨年度より減少したため、オンライン・短期・長期いずれのプログラムにおいても、学生の所属部局と協力し、プログラムへの参加を通して単位付与が可能となるようさらに検討していく。

【特に優れた取組】

本事業においては、主管部局を医歯薬学総合研究科が務めており、本学が推進しているプラネタリーヘルス事業として全学からの学生の参加を募っている。令和5年度の各交流プログラムに関しては、医歯薬学総合研究科のみならず、医学部、歯学部、薬学部、環境科学部、工学部、多文化社会学部など多分野の学生が参加し、アフリカとの交流をととして、多面的な視点からプラネタリーヘルスを学ぶことができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		4人	8人	12人	12人	12人
単位取得を伴う受入学生数		0人	4人	8人	8人	8人
	30日未満A（学部生）			4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上B（大学院生）	0人	4人	4人	4人	4人
上記以外の受入学生数		4人	4人	4人	4人	4人
	30日未満A（学部生）	4人	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（C=小計3+4）		4人	8人	12人	12人	12人
単位取得を伴う受入学生数		0人	4人	8人	8人	8人
	30日未満	0人	0人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	4人	4人	4人	4人
上記以外の受入学生数		4人	4人	4人	4人	4人
	30日未満	4人	4人	4人	4人	4人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数（D）				12人			21人			20人			24人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		12人			0人	21人	0人	8人	12人	0人	12人	12人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				12人			0人	21人	0人	8人	12人	0人	12人	12人	0人	0人	0人	0人
30日未満			A（学部生）	7人			人	17人	人	人	8人	人	1人	8人	人	人	人	人
30日未満			B（大学院生）	5人			人	4人	人	人	4人	人	7人	4人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上			B（大学院生）	人			人	人	人	8人	人	人	4人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）				300.0%			262.5%			166.7%			200.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

令和5年度においては、実渡航、オンラインいずれにおいても目標数を上回る学生を受け入れることが出来た。また、コロナ渦の影響により実施が出来ていなかった短期交流プログラム（長崎フィールド）についても今年度初めて実施することができ、派遣・受入ともに長期・短期プログラムの全てを実施することができた。また、ケニア側連携大学・機関における単位認定の条件の確認、単位付与についての協議が進み、単位互換制度の実現に向けて前進があった。

【特に優れた取組】
長期交流プログラムで4人、短期研修プログラムでは8人（過年度に受入予定であった学生4人を令和5年度に受け入れた）の学生をケニアから受け入れた。長期研修プログラムでは水産・環境科学研究科および医歯薬学総合研究科の複数部局に受け入れ、専門的な教育を施すことができた。短期研修プログラムでは、長崎県五島市を訪れ、次世代型オンライン遠隔医療システム、自然と調和した再生可能エネルギーである浮体式洋上発電所や海洋開発プロジェクト、ドローンを利用した二次離島配送事業等、多くの離島を抱える長崎と僻地を多く持つアフリカの類似点に着眼しながら、プラネタリーヘルスを実体験することができた。
ケニアと日本という異なる環境で育ち、異なる専門分野を学ぶ学生同士が、異なる立場から実体験を共有することでさらに議論を深め、課題解決に向けたプロセスに取り組むことができた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数									1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学【大学名：長崎大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ケニア中央医学研究所 (KEMRI)	認定者数						1
	認定単位数						2
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	1
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	2

2. 国内連携大学【大学名：大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数										

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学【大学名：長崎大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学【大学名：大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京農業大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	タンザニア、ケニア		
事業名	【和文】	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム		
	【英文】	Project-based Collaborative Education Program focusing on Nutrition Improvement in Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	三原真智人	(所属・職名)	グローバル連携センター長 教授
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

https://www.tenkai.nodai.ac.jp/

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で1ページ以内、（３）と（４）で2ページ以内、（５）と（６）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

国際教育プログラムComprehensive International Education Program（CIEP）と世界学生サミット（ISS）を7月から8月にかけて実施し、参画校から短期学生を受け入れた。また、8月には本学からJKUATに長期交換留学生を派遣し、授業の履修に加え、ケニアの行政機関やJKUATの農場でのインターンシップを行った。派遣前プログラムに位置付けている課題解決力醸成ワークショップを5月から7月にかけて実施し、9月にJKUATに短期学生を派遣した。アフリカで事業を行う起業家やアフリカ留学生を交えてAfrican Caféを開催し、協定校の学生との交流の場となるOnline Exchangeを実施した。協定校学生を対象とした本学教員によるOnline Courseをハイブリッドを組み合わせて実施した。

【特に優れた取組】

CIEPでは、農大生と協定校学生が協働し、世田谷キャンパスでの講義・演習、世界農業遺産に指定されている石川県能登地域における農業実習に参加し、農業組合、女性の活躍、6次産業化などを実践的に学ぶことができた。派遣前プログラムの課題解決力醸成ワークショップにはケニア短期派遣プログラムの参加者全員が参加し、事前学習と現場での実践的学習が直接的にリンクする流れを構築した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

8月にCIEP/ISSの引率者として来日した各参画校の担当者とコーディネーター会議を実施した。また、年度末には合同モニタリング会議をオンラインで開催し、これまでの実績を振り返るとともに、令和5年度・6年度計画についての確認・意見交換を行い、事業に関する認識を共有する場を設けた。

【特に優れた取組】

綿密な協議を重ねて行うことで、プログラムが詳細化し、短期、長期の派遣・受入が順調に行われた。良好な関係づくりにより、今後の事業進捗の円滑化が期待される。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学学生を対象にAfrican Caféを実施し、アフリカ留学生やアフリカで事業を展開する起業家を招き、アフリカの理解を深める機会を提供した。また、アフリカ協定校学生とのOnline Exchangeでは、小グループセッションを設け、日本文化やケニアの食文化をテーマに、学生が直接対話する機会を設けた。CIEP/ISSの受入前プログラムとしてオンライン事前オリエンテーションを実施し、長期留学の受入前プログラムとしてオンデマンド初級日本語講座を実施した。本学学生の派遣前には、危機管理専門日本アイラック社より危機管理対策の講義を実施した。

【特に優れた取組】

CIEP及びISSの受入前プログラムをオンラインで実施することで、プログラム内容の詳細説明、日本の自然環境・農業についての基本的な理解の醸成、持ち物・服装など旅行準備に必要な情報提供を行うことができ、来日後のスムーズなプログラム実施に繋げることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本学とジョモケニヤッタ農工大学、ケニアの養殖会社が共同し、ケニアにおける食用資源としてのアメリカザリガニの研究・社会実装への取り組みを開始した。2023年12月にJKUATとはオンラインで繋ぎ、在日ケニア大使館から来賓をお招きし、本学でシンポジウム「ザリガニの資源活用：東京農大持続可能な農業研究プロジェクト」を開催した。シンポジウムの様子や本学のアフリカでの取り組みがネットニュースや新聞等各メディアに掲載された。また、5月に実施した本学世田谷キャンパス整備お披露目式には在日タンザニア連合共和国特命全権大使が来賓として来校し、祝辞を述べられ、8月のISS開会式兼国際センター開設記念シンポジウムでは在日タンザニア連合共和国一等書記官による基調講演が行われた。本学に留学中の協定校学生や本学学生と意見交換を行い、交流を深めた。世界展開力強化事業の活動はSNSツール（Line, Twitter, Instagram）を活用し、情報の配信強化を図っている。

【特に優れた取組】

本学学生及び協定校留学生にとって、アフリカにおける食料問題解決につながる共同研究及び民間企業との連携を学ぶ機会となり、グローバルな課題に取り組むモチベーションをあげることができた。また、多くのメディアに取り上げられることにより、本学のアフリカにおける社会課題への取り組みを周知することができた。

(2) 特記すべき成果
課題解決力醸成ワークショップを短期派遣プログラムの派遣前プログラムに位置付け、参加者を集い、短期派遣プログラム参加者16名全員がワークショップの参加経験者となった。また短期・長期派遣後にCIEPやISSに参加する学生や、大学院進学、JICA海外協力隊、JICA職員（内定）への道に進む学生もあり、事前学習と現場での実践的学習、共有・振り返り、食と農のグローバル人材へとリンクする流れを構築することができた。協定校の学生はOnline ExchangeやOnline Courseに参加後、CIEPやISSに参加し、さらにその内数名は、本学独自の奨学金制度「特別留学生制度」を利用し、本学大学院博士前期課程に正規留学生として入学するに至っている。
(3) オンラインを活用した工夫・改善点
2023年8月に、第22回「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」を開催し、20カ国/地域から発表者29名、座長・アドバイザー19名が参加した。Zoomを活用してプレサミットを開催し、ISS本番までの流れ、修了要件、オンラインツールの利用方法などを説明するオリエンテーションを実施した。加えて、Slackを活用し、ISS専用ワークスペースを作成し、グループ毎のチャンネルを用意したことで、オンラインであっても参加者間がスムーズにコミュニケーションを取ることができる場となり、グループ毎の準備が円滑に行われた。ISSはyoutubeでライブ配信し、各国協定校関係者が視聴できるようにした。

2. 交流学生数の実績等 【（１）と（２）は各３ページ以内】

（１） 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		10人	51人	51人	51人	51人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	17人	17人	17人	17人
	30日未満	0人	15人	15人	15人	15人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	2人	2人	2人	2人
上記以外の派遣学生数		10人	34人	34人	34人	34人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	10人	34人	34人	34人	34人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（A=小計1+2）		10人	51人	51人	51人	51人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	17人	17人	17人	17人
	30日未満	0人	15人	15人	15人	15人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	2人	2人	2人	2人
上記以外の派遣学生数		10人	34人	34人	34人	34人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	10人	34人	34人	34人	34人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0人			41人			64人			60人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド			0人		0人	41人	0人	19人	45人	0人	19人	41人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数					0人		0人	7人	0人	19人	20人	0人	19人	17人	0人	0人	0人	0人
30日未満					人		人	7人	人	16人	20人	人	16人	17人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満					人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上					人		人	人	人	3人	人	人	3人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数					0人		0人	34人	0人	0人	25人	0人	0人	24人	0人	0人	0人	0人
30日未満					人		人	34人	人	人	25人	人	人	24人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満					人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上					人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)				0.0%			80.4%			125.5%			117.6%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

日本人学生派遣実績の内訳は、以下のとおりである。

- ・2021年度は全面オンラインであったが、課題解決力醸成ワークショップ23名、ISS7名、Online Course1名、PCM研修10名が修了した。
- ・2022年度は、課題解決力醸成ワークショップ25名、CIEP17名、ISS3名、実渡航が再開し、長期派遣3名、短期派遣16名であった。
- ・2023年度は、課題解決力醸成ワークショップ24名、CIEP14名、ISS3名、長期派遣3名(うち1名院生)、短期派遣16名であった。

【特に優れた取組】

これまでにアフリカの関心を喚起することを目的としたAfrican Caféには延べ492名、協定校学生とのOnline Exchangeには延べ424名が参加するに至っている。こうした積み重ねにより、アフリカに関心を持つ層が徐々に拡大している。2023年度夏期短期派遣プログラムには、定員16名に対し24名が応募するに至り、アフリカに対する関心の高さが窺えた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計3		10	人	33	人	33	人	33	人	33	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	11	人	11	人	11	人	11	人
	30日未満		人	7	人	7	人	7	人	7	人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人		人		人
	3ヶ月以上		人	4	人	4	人	4	人	4	人
上記以外の受入学生数		10	人	22	人	22	人	22	人	22	人
	30日未満		人		人		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満	10	人	22	人	22	人	22	人	22	人
	3ヶ月以上		人		人		人		人		人

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
小計4		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人		人		人
上記以外の受入学生数		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満		人		人		人		人		人
	30日以上3ヶ月未満		人		人		人		人		人
	3ヶ月以上		人		人		人		人		人

●合計人数

		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
合計人数 (C=小計3+4)		10	人	33	人	33	人	33	人	33	人
単位取得を伴う受入学生数		0	人	11	人	11	人	11	人	11	人
	30日未満	0	人	7	人	7	人	7	人	7	人
	30日以上3ヶ月未満	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	3ヶ月以上	0	人	4	人	4	人	4	人	4	人
上記以外の受入学生数		10	人	22	人	22	人	22	人	22	人
	30日未満	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日以上3ヶ月未満	10	人	22	人	22	人	22	人	22	人
	3ヶ月以上	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数（D）				0人			43人			51人			54人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		0人			0人	43人	0人	13人	38人	0人	13人	41人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人			0人	12人	0人	13人	2人	0人	13人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	12人	人	6人	2人	人	8人	人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	4人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	3人	人	人	5人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				0人			0人	31人	0人	0人	36人	0人	0人	41人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	31人	人	人	36人	人	人	41人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）				0.0%			130.3%			154.5%			163.6%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

外国人学生受入実績の内訳は、以下のとおりである。

- ・2021年度は、全面オンラインで実施し、ISSに12名、Online Course30名、PCM研修1名が修了した。
- ・2022年度は、CIEP/ISSに短期受入6名、長期4名、さらにISSにはオンライン2名が参加。Online Courseでは36名が修了し、長期交換留学生3名（院生）を受入。
- ・2023年度は、CIEP/ISSに短期受入8名、Online Course41名修了、長期交換留学生5名（うち2名院生）。

【特に優れた取組】

協定校学生を対象としたOnline Courseはリアルタイム、オンデマンドに加え、ケニアのBioversity専門家がJKUATに赴き、ハイブリッドで講義を行った。また、ソコイネ農業大学（タンザニア）、ジョモケニヤッタ農工大学（ケニア）、本学学生がグループに分かれ、食料・栄養問題について議論を重ね、最終回では課題解決策を発表した。アフリカと日本のネットワークだけではなく、タンザニアとケニアのネットワークの構築に貢献することができた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】											(単位：校)
単位互換を実施する海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】											(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 東京農業大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ソコイネ農業大学	認定者数	A/B（学部生または大学院生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A/B（学部生または大学院生）	0	4	8	8	8				
ジョモケニヤッタ農工大学	認定者数	A/B（学部生または大学院生）	0	1	1	1	1				
	認定単位数	A/B（学部生または大学院生）	0	4	8	8	8				
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	2	2	2	2				
年度別認定単位数合計			0	8	16	16	16				
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0				

【2023年度末における目標の達成状況】											
(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】											(単位：校)
単位互換を実施した海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	2	2	2	2	2	2			
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】											(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 東京農業大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
ソコイネ農業大学 / ジョモケニヤッタ農工大学	認定者数	A（学部生）	0	7	20	17					
	認定単位数	A（学部生）	0	14	74	62					
ソコイネ農業大学	認定者数	A（学部生）	0	0	2	0					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	11	0					
ジョモケニヤッタ農工大学	認定者数	A（学部生）	0	0	17	19					
	認定単位数	A（学部生）	0	0	53	32					
年度別認定者数合計			0	7	39	36	0				
年度別認定単位数合計			0	14	138	94	0				
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
	認定者数										
	認定単位数										
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0				

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○京都大学、東京外国語大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	アディスアベバ大学（エチオピア）、カイロ大学（エジプト）、マケレレ大学（ウガンダ）、ソコイネ農業大学（タンザニア）、キンシャサ大学（コンゴ民）、ガーナ大学（ガーナ）、アンタナナリヴ大学（マダガスカル）、ザンビア大学（ザンビア）、ボツワナ大学（ボツワナ）、ヤウンデ第Ⅰ大学（カメルーン）、ジョモケニアッタ農工大学（ケニア）、プレトリア大学（南アフリカ）、ステレンボッシュ大学（南アフリカ）、プロテスタント人文社会科学大学（ルワンダ）		
事業名	【和文】	アフリカにおけるSDG s に向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム		
	【英文】	Innovative Africa: Educational Networking Programs for Human Resource Development in Africa's SDGs		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏 名)	高橋 基樹	(所属・職名)	京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
	(交替年月日)	2022年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	シェイク・アンタ・ジョップ（ダカール）大学	Cheikh Anta Diop University of Dakar	セネガル共和国
	2	ヤウンデ第Ⅰ大学	University of Yaoundé I	カメルーン
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

https://iafp.africa.kyoto-u.ac.jp
http://www.tufs.ac.jp/iafp/

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）と（６）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

京都大学では短期・長期留学として18名（10カ国）を受け入れ、内16名が修了した。派遣では短期・長期留学として、アフリカ10カ国へ33名を派遣した。国際合同コンフェレンスでは、62名が参加し、受入学生16名、他9名が研究発表を行った。東京外国語大学では、長期留学（単位認定有）として、8名（4カ国）を受け入れ、11名（4カ国）を派遣した。短期・長期留学（単位認定無）として、3名（3カ国）を派遣した。短期留学（オンライン）派遣として、プロテスト人文社会科学大学（ルワンダ）とのCOIL型授業で9名が単位を取得した。国際合同コンフェレンスでは、9月開催分に77名が参加、11名が発表し、10月開催分には86名が参加、15名が発表した。

【特に優れた取組】

・両大学ともに、受入では各大学での集中講座、企業等の視察、国際合同コンフェレンスなどを通じ、個別指導や実地調査を基盤としたプログラムを実施した。また、オンライン形式（日本語基礎講座やスタディツアー）と対面形式の学習機会を相補的に組合せることで、効果的な人材育成を実現できた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

・京都大学では、2023年度には単位認定を伴う半年間の招聘プログラムを実施できた。また、2022年度に部局間学生交流協定を締結したダカール大学についても、2023年度に新たに派遣・招聘を実施できた。
・東京外国語大学では、新たにヤウンデ第一大学と学生交流協定を締結し、学生を派遣できた。

【特に優れた取組】

・実渡航の再開により日本側とアフリカ側の教員との対面での個別の意見交換が進んだことで、個々の大学の事情に即した形でのシラバス、単位認定、成績管理に関する意見交換を行うことができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・京都大学では教員・研究員の計14名が計27回アフリカに渡航し、協定校などを訪問して学生派遣・受入の環境整備を進めた。学内の複数研究科と連携して派遣支援の枠組みを強化し、他大学にもオープンな形でアフリカ渡航の安全セミナーを開催した。その結果、2023年4月に派遣・受入れを希望する学生の公募を速やかに実施し、日本学生支援機構の協定派遣・受入制度の奨学金を利用して渡航による留学を実現できた。
・東京外国語大学では、2023年度は教員2名が計2回アフリカに渡航し、協定校・JICA事務所・大使館を訪問して学生派遣・受入の環境整備をおこなった。現地で得た情報を基に、派遣候補生を対象とした留学説明会、派遣学生に対するJASSO奨学金オリエンテーションや危機管理についての情報交換会を実施した。派遣予定者には、受入大学の国際局職員や教員を仲介し、学生の円滑な留学準備を支援できた。また、学部生のアフリカ留学のための安全情報冊子を作成し、派遣予定学生に情報提供をしたほか、国内の大学や関係機関に広く配布した。

【特に優れた取組】

・健康・危機管理の対策のため、実渡航を伴う学生の派遣・受入事業で健康管理カルテ関連のシステム活用や各種オンライン手段によるアクセスを確保し、学内部署などと連携して、学生の安全健康の確認を常時行った。
・他大学にも公開する形で、アフリカ渡航のためのセミナー開催や安全情報冊子の作成・配布を実現できた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

・京都大学では、アフリカ研究実績が豊富で英語に堪能な特定研究員2名、英語対応可能な事務補佐員1名および支援職員1名、欧米大学の博士号を所持し国際業務の経験が豊富な学術研究支援員1名、東京外国語大学ではアフリカ研究実績が豊富で英語に堪能な特任助教1名を継続雇用し、国際的体制を整備した。
・日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）と組織的に連携し、本事業の情報共有やイベントの案内、教育交流事業の好事例の紹介等を積極的に発信し、アフリカに関心のある国内大学と情報共有した。

【特に優れた取組】

・2023年12月6日に「第3回日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」を東京でハイブリッド形式で開催した。同委員会では「外部評価委員会」も実施し、学生交流事業を実施中の10大学は事業の進捗状況を報告し、さらに京都大学はプラットフォーム事業の形成について報告し、外部評価委員からの評価とコメントを得た。同日に「第3回 アフリカ実務組織・大学交流会」を開催し、17の企業・政府機関及び非政府団体（新規参加8）、16大学（新規参加4大学）から計64名が参加し、アフリカと日本の大学関係者及び学生などが交流した。

(2) 特記すべき成果

・実渡航を中心に、派遣では目標18名に対し56名、受入では目標17名に対し26名の学生交流を実現した。両大学とも、アフリカの学生には予備的教育をオンラインで実施し、渡航後は、集中講座、企業等の視察、国際合同コンフェレンスを通じたプログラムを提供した。両大学の日本人学生もアフリカ各国の協定校に渡航し、各校の窓口教員が適切に指導を行い、各学生が探求する研究課題を補助した。また、他大学にも公開した安全セミナーの開催、アフリカ留学のための安全情報冊子の作成・配布により安心・安全なアフリカ渡航の基盤を構築した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

・京都大学では、アフリカの学生を対象とした「日本語基礎講座」を9月から電子媒体の教科書を用いてオンラインで実施し、日本に渡航後に実施される対面授業への準備として日本語の基礎を学べる段階を設けた。また、電子媒体の教科書を利用したことにより、アフリカの学生が渡航前から自主的に日本語を学べる環境を提供することができた。また、渡航前のアフリカからの留学生には、本事業で開講する集中講義をオンラインで提供する事前学習を提供することで、来日後の効果的な学習を実現した。

・東京外国語大学では、オンラインプログラム（短期留学プログラム[単位取得有]）として、2024年2月にプロテストント人文社会科学大学とCOIL型授業 “Conflict and Peace Building in Africa”を実施し、東外大学生9名が単位を取得した。また、オンライン日本語講座（OPJLC）を実施し、アフリカからの招聘プログラムを実施する国内他大学にも開放し（6大学17名が参加）、日本語学習の機会を提供した。

2. 交流学生数の実績等【（１）と（２）は各３ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	12人	16人	16人	16人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	3人	3人	4人	4人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上		3人	3人	4人	4人
上記以外の派遣学生数		0人	9人	13人	12人	12人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満		9人	13人	12人	12人
	3ヶ月以上					

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0人	0人	0人	2人	2人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	0人	0人	2人	2人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上				2人	2人
上記以外の派遣学生数		0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（A=小計1+2）		0人	12人	16人	18人	18人
単位取得を伴う派遣学生数		0人	3人	3人	6人	6人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	0人	3人	3人	6人	6人
上記以外の派遣学生数		0人	9人	13人	12人	12人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	9人	13人	12人	12人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 日本人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0人			36人			48人			56人			0人		
					0人		1人	35人	0人	41人	7人	0人	47人	9人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数					0人		1人	5人	0人	5人	7人	0人	11人	9人	0人	0人	0人	0人
	30日未満				人		人	5人	人	人	7人	人	人	9人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上				人		1人	人	人	5人	人	人	11人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数					0人		0人	30人	0人	36人	0人	0人	36人	0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満				人		人	20人	人	人	人	人	4人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満				人		人	10人	人	20人	人	人	21人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上				人		人	人	人	16人	人	人	11人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)							300.0%			300.0%			311.1%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

- ・ 京都大学では、2023年度に10カ国のアフリカ協定大学に33名を派遣した。内訳はケニアへの短期6名と長期1名、エチオピアへの短期2名と長期1名、ボツワナへの長期1名、タンザニアへの短期2名と長期1名、カメルーンへの短期2名と長期2名、マダガスカルへの短期3名と長期3名、ウガンダへの短期2名、ガーナへの短期2名、ザンビアへの短期3名と長期1名、セネガルへの短期1名であった。
- ・ 一方、東京外国語大学では、実渡航を伴う派遣(長期留学プログラム[単位取得有])として、7月から6名(プレトリア大学2名、ステレンボッシュ大学2名、ザンビア大学2名)、10月から4名(プロテスタント人文社会科学大学[PIASS]2名、ガーナ大学2名)、2024年2月から1名(プレトリア大学)を派遣した。実渡航を伴う派遣（長期留学プログラム[単位取得無]）として2024年2月から1名(プレトリア大学)、実渡航を伴う派遣（短期留学プログラム[単位取得無]）として7月から1名(PIASS)、2024年2月から1名(ヤウンデ第1大学)を派遣した。オンラインプログラム（短期留学プログラム[単位取得有]）として、2024年2月にPIASSとCOIL型授業 “Conflict and Peace Building in Africa"を実施し、東外大学生9名が単位を取得した。

【特に優れた取組】

- ・ 京都大学では、新型コロナにより実現できていなかった実渡航によるアフリカへの日本人学生の派遣を実施した。昨年度まで世界展開力事業として進めてきたアフリカの各大学との学生交流協定に基づき、本事業交流相手大学への渡航においては、派遣学生への渡航費や滞在費の支援を行うことができた。世界展開力事業以外の予算で渡航した学生に関しても、世界展開力事業で作成した安全情報データベースや健康管理のシステムを活用して、適切なサポートを行うことができた。
- ・ 東京外国語大学では、アフリカの各大学および大使館から得た現地情報を基に、南アフリカ派遣予定学生を対象に危機管理情報について詳しい情報提供をおこなう南アフリカ情報交換会を2回実施した。アフリカの各大学派遣予定者には、受入大学の国際局職員や教員の仲介を行い、学生の円滑な留学準備を支援できた。また、学部生のアフリカ留学のための安全情報冊子を作成し、派遣学生の安全な渡航のための情報提供を行うことができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		2人	10人	16人	16人	16人
単位取得を伴う受入学生数		2人	3人	4人	4人	4人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上	2人	3人	4人	4人	4人
上記以外の受入学生数		0人	7人	12人	12人	12人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満	0人	7人	12人	12人	12人
	3ヶ月以上					

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0人	0人	0人	1人	2人
単位取得を伴う受入学生数		0人	0人	0人	0人	1人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満					
	3ヶ月以上					1人
上記以外の受入学生数		0人	0人	0人	1人	1人
	30日未満					
	30日以上3ヶ月未満				1人	1人
	3ヶ月以上					

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数（C=小計3+4）		2人	10人	16人	17人	18人
単位取得を伴う受入学生数		2人	3人	4人	4人	5人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	0人	0人	0人	0人
	3ヶ月以上	2人	3人	4人	4人	5人
上記以外の受入学生数		0人	7人	12人	13人	13人
	30日未満	0人	0人	0人	0人	0人
	30日以上3ヶ月未満	0人	7人	12人	13人	13人
	3ヶ月以上	0人	0人	0人	0人	0人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数（D）				2人			11人			26人			26人			0人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド		2人			0人	9人	2人	19人	7人	0人	26人	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				2人			0人	0人	2人	6人	0人	0人	9人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				2人			人	人	2人	6人	人	人	9人	人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				0人			0人	9人	0人	13人	7人	0人	17人	0人	0人	0人	0人	0人
30日未満				人			人	人	人	人	7人	人	12人	人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満				人			人	9人	人	13人	人	人	5人	人	人	人	人	人
3ヶ月以上				人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）				100.0%			110.0%			162.5%			152.9%			0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

・京都大学では実渡航による単位取得を伴う「長期交流プログラム」（6ヶ月）を2023年10月から2024年3月まで実施し、エチオピアからの招聘学生1名について単位認定した。実渡航による「短期交流プログラム」（30日以上3ヶ月未満）を2023年10月から12月にかけて実施した。プログラム参加者は、京都大学と本事業交流相手大学に所属する学生計5名（4ヶ国）で、出身校の内訳はコンゴ民主共和国1名、セネガル1名、タンザニア1名、マダガスカル2名であった。

さらに外部資金のJSTさくらサイエンスによる招聘プログラムにより、京都大学と本事業交流相手大学に所属する学生計10名（5ヶ国）の招聘を2023年12月に実施した。出身校の内訳はザンビア3名、エチオピア3名、マダガスカル1名、カメルーン1名、ケニア2名であった。これらのプログラムでは、学生たちは集中講義・日本語基礎講座・受入教員による個別指導を受けた。集中講義はアフリカのSDG sをテーマとして京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の教員によるリレー形式で実施された。日本語基礎講座は、長期交流プログラムと短期交流プログラムの参加者計6名を対象として実施し、実渡航前の8月と9月はオンライン、学生の来日後は対面で実施された。日本語講座の最終回では日本語でのプレゼンテーションイベントが開催され、京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科の教職員、院生および、国際高等教育員の教員などが参加した。また、プログラムの一環として京都市動物園、琵琶湖疏水記念館、ダイキン工業淀川製作所などでの学外見学を実施した。プログラム参加者16名に対し、修了証明書を発行した。これらのプログラムに加え、2024年2月にはJSTさくらサイエンスのプログラムを活用して森林資源の保護・活用に焦点を当てた招聘事業を実施し、カメルーンの学生2名を招聘した。

・一方、東京外国語大学では、実渡航を伴う受入(長期留学プログラム[単位取得有])として、10月から8名(プレトリア大学1名、ステレンボッシュ大学1名、ザンビア大学2名、PIASS2名、ガーナ大学2名)を受け入れた。また、10月には受入学生が学内外でのネットワーク構築をすることを目的とした第6回国際合同コンフェレンス“TUFS Networking Meeting for African Students 2023"を現代アフリカ地域研究センターとの共催で実施し、6ヶ国7大学86名が参加し、5ヶ国6大学15名の学生が発表した。同コンフェレンスは、ハイブリッドで開催することで、アフリカから受入中の留学生だけでなく、アフリカに派遣中の学生もオンラインで参加し、受入学生と派遣学生も交流を深めることができた。留学生同士の個人レベルの交流は、当人の円滑な留学生活の支えとなるだけでなく、次期派遣・受入学生の留学支援においても重要な役割を果たすため、大学としての留学支援体制を強化することができた。

【特に優れた取組】

・京都大学では、新型コロナの収束に伴い、2022年度に続き実渡航による招聘プログラムを実施できた。渡航前にオンラインにて日本語講座を開講したことにより、渡航後の日本での生活を見据えた学習コンテンツを提供できた。集中講義と個別指導では、アフリカのSDGsに関連する研究テーマを選定したアフリカの学生が、各専門分野の知識と地域社会の固有性への理解を深めることができた。学外見学において、京都市動物園と琵琶湖疏水記念館では、生物学と工学を専門とする教員による解説が行われたことで、専門性の高い内容を提供できた。工場見学で訪れたダイキン工業はアフリカで事業展開していることに加えて京都大学と産学連携での研究を進めているという点で、アフリカのSDGs、日本企業のアフリカでの活動、産学連携などのテーマについて深く学べる機会となった。また、工場見学を通じて各企業の関係者と今後のインターン実施について話し合うことができた。プログラム参加者16名（2024年2月のさくらサイエンスでの招聘学生2名を除く）に対し修了証明書を発行した。日本語入門講座ではルーブリックを用いて成績評価を行った上で、2024年1月に成績証明書をオンラインで発行した。

・東京外国語大学では、実渡航を伴う派遣・受入について特筆すべき成果を3点あげることができた。1)過去最大人数の受入・派遣、2)2大学との新規の派遣・受入、3)フィールドワークを基盤とした短期・長期プログラムの実施である。1)すべてのプロジェクト協定校に対し、協定で定められた全枠を使い学生を派遣した。2)ステンボッシュ大学に2名を初めて派遣し、1名を初めて受け入れた。ヤウンデ第一大学と交流協定を締結し、東京外国語大学のプロジェクト協定校として追加し、1名を派遣することができた。3)大学院生を対象としてフィールドワークを基盤としたプログラムを実施し、学生のニーズに合わせたプログラムを充実させて学生の学びの機会を支援・提供することができた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム 特になし

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（４）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】											
(単位：校)											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	0	2	4	4	8	8	9	10	
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】											
(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)											
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 京都大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
アディスアベバ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	2	2	2				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	4	4	4				
マケレレ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	1	1				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	2	2				
ソコイネ農業大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
ジョモケニアッタ農工大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	1	1				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	2	2				
ガーナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	1	1				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	2	2				
ヤウンデ第Ⅰ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
アンタナナリヴ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	1				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	2				
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	1	1	1				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	2	2	2				
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
キンシャサ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
カイロ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
シェイク・アンタ・ジョッ プ(ダカル) 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0	0				
年度別認定者数合計			0	0	3	6	7				
年度別認定単位合計			0	0	6	12	14				

【2023年度末における目標の達成状況】											
（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】											
(単位：校)											
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	0	0	0	1	2	2			
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】											
(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)											
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名： 京都大学】											
相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度				
アディスアベバ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
マケレレ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ソコイネ農業大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ジョモケニアッタ農工大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ガーナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ヤウンデ第Ⅰ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
アンタナナリヴ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ザンビア大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
ボツワナ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
キンシャサ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
カイロ大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
シェイク・アンタ・ジョッ プ(ダカル) 大学	認定者数	B（大学院生）	0	0	0	0					
	認定単位数	B（大学院生）	0	0	0	0					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0				
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0				

2. 国内連携大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ガーナ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	0
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	0
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	1
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	6
プロテスタント人文・社会科学大学	認定者数	A（学部生）	0	0	2	1	1
	認定単位数	A（学部生）	0	0	12	6	6
プレトリア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	1	1	1
	認定単位数	A（学部生）	0	0	6	6	6
ステレンボッシュ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	1	1
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	6	6
ヤウンデ第Ⅰ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	0
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	3	3	4
年度別認定単位数合計			0	0	18	18	24

2. 国内連携大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ガーナ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ザンビア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	1	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	4	
プロテスタント人文・社会科学大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	2	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	34	
プレトリア大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ステレンボッシュ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
ヤウンデ第Ⅰ大学	認定者数	A（学部生）	0	0	0	0	
	認定単位数	A（学部生）	0	0	0	0	
年度別認定者数合計			0	0	0	3	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	38	0

大学の世界展開力強化事業（令和 2 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○京都大学、東京外国語大学		
主たる交流先	アフリカ諸国	アディスアベバ大学（エチオピア）、カイロ大学（エジプト）、マケレレ大学（ウガンダ）、ソコイネ農業大学（タンザニア）、キンシャサ大学（コンゴ民）、ガーナ大学（ガーナ）、アンタナナリヴ大学（マダガスカル）、ザンビア大学（ザンビア）、ボツワナ大学（ボツワナ）、ヤウンデ第Ⅰ大学（カメルーン）、ジョモケニアッタ農工大学（ケニア）、プレトリア大学（南アフリカ）、ステレンボッシュ大学（南アフリカ）、プロテスタント人文社会科学大学（ルワンダ）	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏 名）	高橋 基樹	（所属・職名） 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
	（交替年月日）	2022年4月1日	

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://iafp.africa.kyoto-u.ac.jp>

<http://www.tufs.ac.jp/iafp/>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で1ページ以内、（３）と（４）で2ページ以内、（５）は1ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
プラットフォーム構築プログラムの内容 ・人材育成プラットフォーム構築プログラムでは、ハイブリッド形式で国内実施校会議を計4回開催し、情報共有を進めた。また、東京にて「外部評価委員会」（7委員及び10大学）、「第3回日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」（7委員及び10大学）、「第3回アフリカ実務組織・大学交流会」（17実務組織、16大学から64名）を開催した。京都では「第3回日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」をハイブリッド形式で開催し、日本14大学、アフリカ16大学、その他4団体から計105名が参加した。現段階では、日本の各大学と他方のアフリカの各大学、JICAなど日本の関係実務組織、アフリカ各国駐在の大使館などとの連携体制は構築できたが、今後は人材の社会参画のため企業等でのインターンシップや民間採用の増加を進める必要がある。 ・情報プラットフォームの強化のため、日本とアフリカの学生交流を推進することを目的とした「日本・アフリカ学生交流ポータルサイト」の本格運用を開始した。アフリカの大学の掲載国及び安全・健康・生活・危機管理情報の掲載国も合計20か国にまで増加した。また、東京外国語大学が発行した安全情報冊子『学部生の安全なアフリカ留学に向けて』を同サイトでも掲載し、アフリカへの安心・安全な渡航の環境の整備に努めた。さらに、京都大学のアフリカに関する動画コンテンツを新たに2件追加掲載し、JV-Campusの充実にも貢献した。東京外国語大学は、JV-Campusに日本に関するオンデマンド学習教材を新たに8件追加掲載し、アフリカを含め広く国内外の学生に向けて提供している。現段階では継続的に情報収集を行う体制が整ったが、今後は本事業終了後も継続的にポータルサイトが運用・拡充できる体制を整えていく。
【特に優れた取組】 ・昨年度に引き続き、日本・アフリカの大学間のマッチングのため、日本の大学との連携を図るアフリカの関連組織に対し京都大学が積極的に支援を行った。具体的には、2023年9月に山口大学とともにケニアを訪問し、ナイロビ大学の学長及び学部長・部局長と面談をし、獣医学分野での教育交流から全学交流協定への拡大を支援した。また、上智大学のナイロビ大学との全学交流協定締結を支援した。 また、上で言及した大学に加えて、神田外国語大学、京都精華大学、京都先端科学大学、神戸情報大学院大学、神戸大学、東北大学、立命館大学、創価大学、東京工業大学、帝京大学、ステレンボッシュ大学、ヨハネスブルグ大学、ツワナ工科大学（以上南アフリカ）、シェーク・アンタ・ジョップ大学（セネガル）、アジスアベバ大学、アジスアベバ科学技術大学、バハルダール大学（以上エチオピア） など、日本・アフリカ双方の大学と交流促進について、各大学と協議し、助言、交流のマッチングを推進した。
（２）特記すべき成果
・人材育成プラットフォーム構築事業では、会議等で各大学が抱えている問題・課題等を共有することで、さらに大学間、組織間の連携を深めることができた。 ・実施大学会議では、京都大学が、アフリカでの教育研究交流の実績を活用して、スタートアップ型の宇都宮大学や山口大学を訪問し、安全管理やアフリカの大学との交流拡大などの具体的な事業実施の支援を行い、両大学での交流の安全性向上、交流拡大に貢献した。 ・「日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」では、来日したセネガルのシェーク・アンタ・ジョップ大学の学長が日本ーアフリカの学生交流の意義について講演を行った。また、現在、日本で活躍している3名のアフリカ出身の教員が日本に留学した経緯から日本での生活への適応過程、そして研究者となるまでの自身の経験を発表した。世界展開力の枠組みを超え日本から14大学、アフリカから16大学、その他4団体から計105名の参加があり、大学間の一層の連携の基盤構築に貢献した。実務的な観点からも意義あるイノベーション人材を創出する基盤を整えつつ、日本とアフリカの大学から新規の参加校を取り入れるプラットフォームを拡充することができた。 ・京都大学が実施する派遣学生向けの安全講習会を世界展開力事業を実施する他大学関係者にもオンライン形式で開催し、京都大学での安全の向上のみならず、学内で蓄積したノウハウを共有することで、他大学での安全な渡航の実現に貢献した。また、京都大学としては、他大学からの質問や意見を聞く機会を得たことにより、講習会の内容を充実させることができた。 ・上智大学がケニアのナイロビ大学と交流を開始する段階から支援を開始し、ケニアでの各関係者とのネットワークづくりにも協力した結果、2024年1月に全学交流協定の締結に至った。 ・「日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワーク」拡大の具体的なかたちとして「日本アフリカ大学連携ネットワーク」の加盟校増加を図り、2024年3月14日に東北大学、京都先端科学大学が参加した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点
・「日本アフリカ学生交流ポータルサイト」の機能拡充に向け、「日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）」と密接に連携し、本事業実施大学だけでなく、国内でアフリカの大学と教育交流実績のある大学の情報を網羅的かつ効果的に収集した。具体的には、JAANと一体の「日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワーク（国内大学ネットワーク）」の加盟大学に情報提供を依頼し、アフリカの留学生の受け入れに関する情報について、日本の4大学及びアフリカの3大学の情報を追加掲載し、合わせて日本の21大学、アフリカの23大学の情報の掲載を達成した。また、アフリカ諸国における生活、安全、健康および危機管理に関する情報について、前年度までに掲載した15カ国に加え、新たに3カ国を追加し、計18カ国の情報を掲載した。このように、アフリカの大学、生活、安全、健康および危機管理の情報とデータベースのサイトを統合し、プラットフォーム事業全体の概要がわかりやすくなるように、同サイトを改善することで、より効果的な情報共有プラットフォームとすることができた。

2. 取組実績 【(1)と(2)各1ページ以内】

(１) 日本とアフリカ諸国の大学間交流の推進に関する目標と実績											
【事業申請時の達成目標】						【2023年度末における目標の達成状況】					
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
(指標１) 日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワークへの新規の参加大学数	0	10	10	10	10	(指標１) 日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワークへの新規の参加大学数	25	3	0	2	
(指標２) アフリカ・日本大学間教育交流ミーティングへの新規の参加大学数	0	16	16	16	16	(指標２) アフリカ・日本大学間教育交流ミーティングへの新規の参加大学数	0	26	14	7	
(指標３) アフリカ実務組織・大学交流会への新規の参加組織・大学数	0	20	20	20	20	(指標３) アフリカ実務組織・大学交流会への新規の参加組織・大学数	0	38	19	14	
(指標４) アフリカ主要大学情報のデータベースに新規に掲載する新規の大学数	0	10	10	10	10	(指標４) アフリカ主要大学情報のデータベースに新規に掲載する新規の大学数	12	0	8	3	
(指標５) アフリカ各国安全健康・危機管理のデータベースへの新規掲載国数	0	5	5	5	5	(指標５) アフリカ各国安全健康・危機管理のデータベースへの新規掲載国数	9	4	2	3	

（２）任意指標に関する目標と実績	
【事業申請時の達成目標】	【2023年度末における目標の達成状況】
任意指標１．<u>日本及びアフリカの大学間のマッチング支援</u> プラットフォーム構築事業のアウトカムとして、本事業の助言・支援を契機とするマッチング（日本とアフリカの大学が教育交流に向けた協議を念頭に連絡をとり合うこと）をできる限り増やすことを目標とする。また実際の教育交流のプログラム構築及び協定締結にも助言・支援する。 任意指標２．<u>日本人・アフリカ人の留学経験者のキャリア形成の参考事例</u> 日本人とアフリカ人の相互の地域での留学経験者が、実際にどのようなキャリアを重ねながら、両地域において社会的な活躍・貢献をしてきたかについて、できる限り学部卒、大学院修了の双方、また異なる学問分野ごとに情報を収集し、参考事例を公開する。期間全体でできる限り多くのキャリア形成の参考事例を収集し、ウェブサイトでの紹介を行う。 任意指標３．<u>実務組織の求める日本・アフリカの高度専門人材の具体的内容の収集・整理</u> 日本の企業やNGO・NPO、国際協力機関等から、必要とされる持続可能な開発に貢献する日本及びアフリカの高度専門人材の具体的条件・内容と、そのために求められる高等教育のありかたについて、できる限り多くの意見を聴取し、体系的に整理し、公開する。	任意指標１．日本及びアフリカの大学間のマッチング支援 日本の大学との連携を図る南アフリカの関連組織に対し京都大学が積極的に支援を行った。2023年9月に山口大学とともにケニアを訪問し、ナイロビ大学の学長及び学部長・部局長と面談をし、獣医学分野での教育交流から全学交流協定への拡大を支援した。また、神田外国語大学、京都精華大学、京都先端科学大学、神戸情報大学院大学、ツワナ工科大学（南アフリカ）、シェーク・アンタ・ジョップ大学（セネガル）などと、日本・アフリカ双方の大学と交流促進について、各大学と協議し、助言、交流マッチングを推進した。上智大学がケニアのナイロビ大学と交流を開始する段階から支援を開始し、ケニアでの各関係者とのネットワークづくりにも協力した結果、2024年1月に全学交流協定の締結に至った。 任意指標２．日本人・アフリカ人の留学経験者のキャリア形成の参考事例 「日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」において、現在、日本で活躍している3名のアフリカ出身の教員が日本に留学した経緯から日本での生活への適応過程、そして研究者となるまでの自身の経験を発表した。 任意指標３．実務組織の求める日本・アフリカの高度専門人材の具体的内容の収集・整理 「第3回 アフリカ実務組織・大学交流会」を通じて、一般企業、国際協力機関が求める人材像に関して参加者に共有することができた。また参加者間で名刺交換の時間も設けられ、大学と実務組織との間のネットワークを広げ、交流を深める貴重な場となった。今年度も横河電気からのアフリカ人学生をリクルートしたいという要望を受け、「日本アフリカ学生交流ポータルサイト」で募集情報を公開するなどアフリカー日本間の人材交流のために努めた。